

平成27年度

事業報告書

ともえ学園

平成27年度事業報告書

ともえ学園

1 利用者の状況

①年間の入退所者状況

定員70名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
月初在園数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
月末在園数	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70

②短期入所事業受入状況

定員2名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	1	3	2	5	3	4	3	4	3	2	3	3	36
受入回数	1	3	5	8	6	8	7	7	6	2	6	9	68
受入延日数	3	13	17	43	51	45	24	28	21	10	47	63	365

③日中一時支援事業受入状況

定員 若干名

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
受入人数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
受入回数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
受入延日数	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1

④在所者状況（平成28年3月31日現在）

年齢	男	女	計
18～20歳未満	0	0	0
20～25歳未満	0	0	0
25～30歳未満	3	0	3
30～35歳未満	4	0	4
35～40歳未満	6	0	6
40～45歳未満	20	1	21
45～50歳未満	16	2	18
50～55歳未満	12	1	13
55～60歳未満	4	0	4
60～65歳未満	0	0	0
65～70歳未満	1	0	1
計	66	4	70

在園年数	男	女	計
0～1年未満	0	0	0
1～5年未満	4	0	4
5～10年未満	4	0	4
10～15年未満	6	1	7
15～20年未満	34	2	36
20～30年未満	7	1	8
30～35年未満	11	0	11
計	66	4	70

診 断 名	男	女	計
自閉症	49	3	52
精神発達遅滞	11	0	11
てんかん	4	0	4
統合失調症	1	1	2
その他	1	0	1
計	66	4	70

障害支援区分	男	女	計
6	24	0	24
5	28	3	31
4	13	1	14
3	1	0	1
計	66	4	70

出身市区町	広島市中区	広島市東区	広島市南区	広島市佐伯区	広島市安佐北区	広島市安佐南区	広島市安芸区	大竹市	呉市	福山市	廿日市市	三次市	東広島市	尾道市	竹原市	江田島市	庄原市
男	3	2	5	9	3	4	1	2	8	4	1	4	1	2	1	1	2
女	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	4	3	6	9	3	4	1	2	8	4	1	4	1	2	1	1	2

安芸郡熊野町	世羅郡世羅町	島根県松江市	山口県防府市	山口県周南市	山口県岩国市	山口県下関市	岡山県真庭市	富山県富山市	石川県津幡町	長崎県長崎市	東京都渋谷区	計
1	1	2	1	1	2	1	1	1	0	1	1	66
0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	4
1	1	2	1	1	2	1	1	1	1	1	1	70

(高田孝康)

2 トライアングルグループ

1 グループ目標

利用者自身の自己決定、自己選択を尊重する。

ひとり一人が安定した生活を送られるよう、明るく過ごしやすい生活環境と個別配慮された生活パターンを支援、提供していく。

2 生活全般

①目標：基本的な生活習慣の確立を目指す。

- ・健康、清潔の維持に努める。

②内容

衣類整理：衣類を洗濯室から自室に持ち帰り、整理し入浴の準備を行う。

- ・パジャマの準備ができたなら脱衣室の棚へ持って行く。
- ・棚にパジャマを置き、衣類カゴは洗濯室に返す。
- ・時間を分け、支援の必要な方は職員が側について一緒に行う。

- 衣類：破けたり、ゴムが伸びた物は、補修したり、新しい物と交換を行った。
- ・季節に応じた衣類を着てもらったり、足りない物は、購入した。
 - ・身だしなみについても正しい着こなしが出来る様に支援を行った。
- 食事：自分で配膳口からセルフでお膳にセットし、席まで運び、摂取する。
- ・安心して食事が出来る様に席にも配慮する。
- 入浴：グループ毎での入浴を行う。洗体、洗髪が行えるよう個別の支援を取り組む。
- ・入浴後皮膚疾患のある利用者には、個々の薬を塗布する。
 - ・踵や手の荒れを防ぐ為、クリームを塗布する。
- 手洗い：飲食前やクラブ活動後などに、石鹸を泡立てて手を擦るなど確実な手洗いが行えるよう支援を行った。
- ・手指乾燥機の使用を支援した。
- 整容：朝食後の歯磨き後に洗顔を行う。できない人は、職員が支援を行った。
- ・髭剃りについては職員が全面的に支援を行った。
- シーツ交換：毎週土曜日に更新。できる限り、自分のシーツは、自分で交換をしてもらった。
- ・失禁等で寝具が汚れやすい方については、個別に敷きパット等を使用し、なるべく寝具が汚れないように配慮した。
 - ・シーツが汚れたときは、速やかに交換を行った。
- 日用品：在庫確認による常備を行った。
- ・早めの発注を心掛けたが、在庫不足が生じ、係以外の職員が発注した。
 - ・月1回血圧、体組成測定（腹囲測定1月より）を行い増減をチェックする。
 - ・毎週日曜日の午後、爪切り、耳掃除
- ③経過・課題：シーツ交換は、職員の支援によってできる人が増えてきた。
- ・課題としては、手洗いや手指乾燥などが不確実な利用者が多いため、今後も継続して確実な手洗いができるよう取り組む必要がある。
 - ・ズボンが緩くなったり、シャツを出したままになっている事もよく見られるため、身だしなみに気をつけていく。
 - ・衣類の不足がないように早めに購入をしていく。

3 口腔ケア

- ①目的：口腔内の残渣物除去を行う。
- ・利用者の健康維持管理を目指す。
- ②内容：日々の歯磨き支援に加えて、丁寧にブラッシングをし、口腔内のチェック等を利用者一名につき月二回実施した。
- ③経過、課題、まとめ
- ・昼食後、二名ずつ口腔ケアを実施した。上半期は、電動歯ブラシを使用しての口腔ケアを実施していたが、歯間の残渣物除去は、丁寧にブラッシングをしないと除去出来ない事等の理由で下半期は、電動歯ブラシを使用せず行った。12月、1月は個室対応者が多く、個室対応の期間も長かったため、口腔内を清潔に保つことが難しかった。
 - ・今後は歯間ブラシや糸ようじ等の活用も考えたいと思う。
 - ・口腔ケアを確実に実施することで1年を通して健康に過ごしてもらいたいと思う。

4 清掃

①目的：生活棟の清潔を保つ

②内容：一日、3回のモップでの床拭き掃除を行う。（居室は一日一回）

- ・ドアノブなどの拭き上げをクロスを使用して行う。
- ・トイレ掃除を一日3回定期的に行い、汚れなどがあつたと時には速やかに清掃した。
- ・布団干しに名前を記入して布団干しを行った。
- ・ふとん乾燥機を使用し、毎日、数名の布団乾燥を行い、乾燥を行った人は、チェック表に日付を記入した。
- ・湿度の低いときには、感染予防の為、加湿を行った。

③経過・課題

- ・洗浄剤を使った床のモップ掛け（1日3回）やドアノブ拭き（1日1回）を行った。
- ・布団乾燥については、天気の良い時には、外へ干した。干せないときには布団乾燥機を使用。
- ・日課の変更により、グレーチングやフィルター交換が出来ていない事が見られた。
- ・加湿器の使用もできない時があつたので日課の中入れる事が必要だと思う。
- ・外泊期間中に掃除場所を明確にして普段出来ない所を行った。
- ・利用者がクラブ活動として、床拭きや窓拭き、ドアノブ拭きを行った。

5 日課

クラブ活動

①目標：利用者が安定して活動しやすい場と活動プログラムを充実させ、確実に活動できる環境を提供する。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容

- ・午前 クリーンクラブ・・・ 生活棟内の清掃（床拭き、窓拭き、ドアノブ部拭き）
生活歩くクラブ・・・ 遊歩道の散歩（雨天時：センターウォーキング）
作物クラブ・・・ 雑草や倒木の運搬（雨天時：洗濯室裏の掃除）
フォックスのプランターへ水やり
- ・午後 生活歩くクラブ・・・ 遊歩道の散歩（雨天時：センターウォーキング）
マシン・・・ センターでのマシン
育成クラブ・・・ 中庭側の窓拭き 中庭の手入れ

③経過・課題

- ・上半期はクラブ別に倒木の処理や草運び、散歩や棟内の清掃活動を予定通り行えた。しかし、冬季からは利用者の他傷行為増加によるメンバー変更や感染症の流行、職員数の減少などで午前午後とも散歩を主体にして取り組んだ。
- ・来年度からは、クラブ活動の内容を充実させ、利用者に『働く』と言う事を理解していただける様な活動を提供していきたい。

小グループ活動

①目標

- ・少人数で行動することで、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上に繋げていく。
- ・様々な創造活動を利用者に提供し、利用者がどんな作業ができるかを探し出す。
- ・小グループに分けて一人一人観察する余裕を持たせ、各々が集中出来る時間や好む環境などの

把握に努め、併せて気分転換の一助にする。

②内容：行事前に、作品作りを行った。

- ・紙の花作り、七夕飾り、文化祭の装飾作り、楽器作り、クリスマス飾り、節分祭の装飾、書道、折り紙、塗り絵

③経過・課題

- ・少数グループの場合は、活動内容の充実や移動時間の短縮ができていたことが、今までの取り組みで実証されているので今後も少人数でのメンバー編成は継続する。
- ・小作業室を利用した活動については、道具も充実してきており「利用者に合った活動を」との方針で行ってきたが、道具類が増えるにつれ職員側から「何をすればいいか判らない」との意見が出るようになった。小作業室の物品を整理しながら、活動内容をある程度決めていく必要がある。
- ・中庭でプランターを利用した農作業もできるようになったので、水やりや種植えなど今後の活動の幅も広がるので継続していきたい。

個別活動

①目的：少人数で活動をする事により利用者への理解を深め、利用者の新たな側面を確認し今後の生活や活動の向上につなげていく。

②内容

- ・特に決まった時間を設けることはなく利用者にあつた活動を職員と一対一や二対二で行った。
- ・生け花、計算ドリル、漢字ドリル、文字を書く練習、塗り絵、編み物、ピアノ演奏、絵本、ウォーキング、テレビゲーム、ジグソーパズル、椅子トレ体操、食ベトレ体操、音楽鑑賞、読書、カレンダーを利用したコミュニケーション

③経過・課題

- ・当初は決まった時間を設けて行う予定だったが、職員数が減ったこともあり予定通り時間を組むことができなかった。
- ・決まった時間を設けることは次年度もせず、職員一人ひとりがより柔軟に対応し、各利用者の施設サービス計画書2表を反映した活動にして行きたい。

健康体操

①目標：楽しみながら健康維持につなげる体操を毎日行う。

- ・体を動かす事で喜びを見つける。
- ・継続することで、利用者の変化や好みを観察をする。

②内容：集いやスポーツの時間に楽しく、職員と一緒に体操をする。

- ・スポーツの時間にプレイルームや集いの時間にラジオ体操とサザエさん、OHK体操などの曲に合わせて体操を行った。
- ・9月のスポレク祭、11月の福祉健康祭に向け、「野菜は元気な宝箱」の曲で体操の練習を行った。
- ・トライアングルテレビでYouTubeで画像を見ながら、体操の練習を行った。

③経過・課題

- ・何度も同じ曲をかける事で利用者も歌を口づさんだり、体操が出来る人は体操を覚えた。
- ・福祉祭後からは、健康体操としては、活動をしなかった事が反省点。
- ・音楽に合わせての体操は、グループの半数の人は、出来ていないので曲に合わせた体操ばかりではなくストレッチ等で個別化していく方が良いと思う。

運動

- ①目的：体力維持、向上を目指す。
- ・楽しみながら身体を動かす。
- ②内容：行事に合わせて出し物の練習、雨天時活動が出来ない日のマット運動。
- ・バスケットボール、フリスビー、自転車乗りなど
- ③経過、課題：ボール運動などは楽しめる利用者とそうでない利用者に分かれる。
- ・マット運動ではほとんどの利用者声かけで前回り等が出来た。
 - ・課題としては職員と一緒に楽しめる様に支援していく。

6 行事

- ①目標：利用者個々に応じた行事を提供する。
- ・季節感を実感したり、様々な体験をしてもらえる事で充実した生活を送ってもらおう。
 - ・誕生日を意識してもらい楽しい日を過ごす。

②内容

月	日	行事名	参加人数	場所
4	9	花見・バスドライブ	24名	ハウス横広場・上野公園
5	1	ブ	19名	三次親水公園
	8	バスドライブ	24名	三次風土記の丘
6	4	バスドライブ	24名	三次公園カルチャーセンター
7	3	バスドライブ	24名	鮎の里
7	18	バスドライブ	24名	君田遊園地
8	6	地域交流	24名	多目的棟、プレイルーム
9	9	夏祭り	23名	灰塚記念公園
10	10	バスドライブ	24名	折り紙博物館
11	9	レクリエーション	23名	常清滝
12	3	バスドライブ 忘年会	23名	療育センタープレイルーム
1	5	新年会	23名	療育センタープレイルーム
2	6	バスドライブ	23名	トレッタみよし
3	5	お楽しみ会	23名	プレイルーム・灰塚記念公園
4	23	宿泊旅行	3名	水木しげるロード・松江フォーゲルパーク
5	20	宿泊旅行	3名	尾道千光寺公園・大久野島
6	18	宿泊旅行	3名	呉方面・蒲刈
7	8	宿泊旅行	2名	三次市内・庄原市内
9	16	宿泊旅行	4名	尾道千光寺公園・大久野島
4	27	日帰り旅行	3名	世羅高原農場・世羅ゆり園
5	18	日帰り旅行	3名	安佐動物公園
7	13	日帰り旅行	3名	マツダスタジアム・平和公園
9	25	日帰り旅行	3名	トムミルクファーム・湖畔の里福富
10	15	日帰り旅行	3名	出雲大社・ゆめタウン出雲

10	20	日帰り旅行	3名	ガスト西条店・広島空港
11	16	日帰り旅行	2名	島根県雲南市湯村温泉方面
5	7	誕生者外出	4 2	三次市内 療育センター宿泊室 (誕生日は1日)
	17	誕生者外出	5 4	折り紙博物館・君田遊園地
6	5	誕生者外出	4 9	三次市内 カレー屋 丘陵公園 療育センター宿泊室
	17	誕生者外出	3 2	君田温泉
7	18	誕生者外出	4 3	三次市内
	22	誕生者外出	4 0	三次市内喫茶店 (誕生日は17日)
	24	誕生祝い会	3 6	療育センター宿泊室
8	15	誕生者外出	4 0	神楽門前湯治村
	15	誕生者外出	5 1	神楽門前湯治村
	17	誕生者外出	3 2	三次市内 喫茶店 ホームセンター
9	26	誕生者外出	5 1	三次市内 喫茶店 ホームセンター
	28	誕生者外出	4 1	三次市内スーパー
10	17	誕生祝い会	4 7	療育センター宿泊室
11	6	誕生祝い会	4 6	トライアングル宿直室
	20	誕生者外出	5 1	理髪店、喫茶店、洋品店 (誕生日は19日)
	20	誕生者外出	4 9	理髪店、喫茶店、洋品店 (誕生日は21日)
	27	誕生祝い会	4 1	遊歩道、療育センター宿泊室 (誕生日は18日)
12	20	誕生者外出	4 1	三次市内、療育センター宿泊室
1	5	誕生者外出	5 2	コンビニ、療育センター宿泊室
2	15	誕生祝い会	4 4	トライアングル宿直室
	21	誕生祝い会	4 6	トライアングル宿直室
	23	誕生者外出	5 2	三次市内スーパー (誕生日は 1月18日)
	25	誕生祝い会	3 6	トライアングル宿直室
3	22	誕生者外出	5 2	高谷山展望台、三次ワイナリー (誕生日は12日)

③まとめ

- ・今年度は、お楽しみ外出を無くし、宿泊旅行、日帰り旅行、誕生者お祝い会を行った。
- ・宿泊旅行、日帰り旅行はほとんど利用者3名で組んだ為、余裕をもって見守り等が出来た。
- ・利用者の組み合わせも考える必要があるなので、早めの検討が必要だと思う。
- ・誕生者お祝い会については、誕生日当日体調が悪かったり、行事の関係でお祝い会の日がちが、ずれることもあった。また、同じ誕生日者や誕生日に近い利用者は、一緒にお祝いを行う事で一日外出を組む事ができた。

7 トライアングルレクリエーション

平成27年10月10日(土) 時間10:25～15:30 利用者24名 15家族21名参加

①目的：利用者、ご家族、職員、三者の親睦を深め、楽しいひとときを過ごす。

②内容：折り紙博物館へ集合。家族で博物館見学。

- ・昼食：職員の手作りうどんとおむすび
- ・折り紙体験：色紙作り。折り紙で花を作成し、家族写真を貼る。(文化祭で展示)

- ・間食：ヤマメの炭焼き 缶飲料

③反省・感想

- ・昼食準備に使用するコンロが1つ点かないハプニングがあったが調理室を貸していただきなんとかうどんを作ることができた。
- ・ご家族の協力もあり、間食のやまめも上手に焼けていた。
- ・昼食までに体育館で出来る運動などを準備しておけば良かった。
- ・家族の方が博物館見学や昼食、のうどん、色紙作り等とても楽しんでおられた。
- ・ヤマメの炭焼きを初めて食べられた御家族のかたがおられ喜んでおられた。

8 掲示板

- ①目的：1日の予定を利用者にわかりやすく提示する。
- ②内容：ホワイトボードの当日の予定・勤務者・献立を記載する。
- ③経過、課題
 - ・毎日更新できている。
 - ・マグネットが破けてきたり、使用しなくなる物も出て来るのでその都度更新する。

9 記録

- ①目的：利用者の写真を、利用者の方が理解される形で提供し、生活を振り返ったり、行事や外出などの思い出を楽しんで頂く。
 - ・生活の充実を図る。
- ②内容：定期的に日常の写真をホワイトボードに掲示する。
- ③経過、課題：写真を掲示すると興味を持って近づいてくる利用者もいた。
 - ・張り出された写真を直ぐに剥がし破ってしまう利用者がいた。
 - ・ホワイトボード自体も投げられてしまうことが増えてきたのでアルバム形式にして保存するようにした。
 - ・気軽に利用者に見てもらえるようにする。
 - ・定期的に新しい写真を提供する

10 環境

- ①目的：利用者が生活しやすくなるよう環境整備、棟内の改善を行う。
- ②内容：ベッドとサッシ、壁の修繕と定期チェック。ベッドの更新6件。
 - ・居室棚の整備。
 - ・トイレへペーパー置きを設置。
- ③経過、課題
 - ・更新したベッド一台の足が壊れた。すのこは無傷だった為、そのまま使用してもらっている。
 - ・壁は随時、修理している。キッチンパネルになった為、壁の損壊は減ると思われる。
 - ・サッシが更新された。順次掃除を行い、きれいな状態を維持していく。
 - ・トイレにちり紙置きを設置したが、一部損壊。他は損傷ない為そのまま使用してもらっている。
 - ・ベッドの更新は必要に応じて随時行っていく。
 - ・中庭への玄関設置の計画を立てる事、使用用途など具体的に考えていく事が課題。

11 グループ会議

- ①目的：より良いサービスを提供できるように支援内容、各活動についての課題を協議する。
 - ・ケースカンファレンスを行い支援の方法、見直しを行う。

- ・取り組みについての意識統一を図る。

②内容

- 4月 運営会議より 処遇会議より 虐待防止委員会より 次長より、栄養課長より、活動行事 生活 健康体操 個別 環境 口腔ケア ケースカンファレンス（2名）
- 5月 運営会議より 処遇会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 新日課 生活クラブ活動 個別 健康体操 環境 記録 ケース記録 ケースカンファレンス（4名）
- 6月 運営会議より 処遇会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 業務の流れ 生活口腔ケア 食堂の片付け 短期利用者の記録 ケースカンファレンス（2名）
- 7月 運営会議より 処遇会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 クラブ活動 生活 環境 個別 口腔ケア 午前の間食 ケースカンファレンス（2名）
- 8月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 クラブ活動 健康体操 日誌 口腔ケア 外泊期間中の過ごし方 ケースカンファレンス（4名）
- 9月 運営会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 トライアングルレク 生活 スポレク祭 クラブ活動 健康体操 環境 口腔ケア ケースカンファレンス（4名）
- 10月 運営会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 トライアングルレク 処遇改善クラブ活動 健康体操 生活 環境 口腔ケア ケースカンファレンス（6名）
- 11月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 行事 クラブ活動 環境 日誌 うがい 親の会発表会 ケースカンファレンス（4名）
- 12月 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 人権委員 感染症の対応訓練 行事 共有事項の共有方法 ケースカンファレンス（2名）
- 1月 運営会議より 虐待防止委員会より（虐待事案の経緯説明、質疑応答）行事 活動 生活 日誌 口腔ケア 腹囲測定 排便確認 夜間の排泄誘導 サイボウズの掲示板 ケースカンファレンス（4名）
- 2月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より 行事 実習係 生活 環境 口腔ケア 窓拭き 学園周りの散歩 食堂のテーブル ケースカンファレンス（5名）
- 3月 運営会議より 支援部課長会議より 虐待防止委員会より クラブ活動 健康体操 生活 環境 口腔ケア 感染症対応物品 感染症時の水分補給 ケースカンファレンス（2名）

③経過、課題

- ・今年度より、虐待防止委員会からの報告が入り、虐待に対する学習が出来たと思っていたが、グループ職員の虐待と思われる行動が解った。今後も、もっと虐待について啓発活動を会議の中で行っていきたい。
- ・クラブ活動の変更があり、会議での意見交換を行った。
- ・会議内でのケースカンファレンスでは、問題行動と思われる行動がある利用者を中心とし、支援内容の確認を行った。
- ・参加メンバー職員が意見を自由に出せるように司会を務めたつもりだが、同じ職員しか発言が無かった。発言してもらえるような司会進行に努める。
- ・グループの係リーダーへ議題を提出を求めたが、殆ど記入無く残念だった。
- ・夜勤入り、明け職員の議題の収集と、伝達に課題が残った。

1.2 まとめ

- ・今年度は、虐待防止法について会議で学ぶ事ができたが、グループ職員の虐待と思われる行動が

解り、大変ショックを受けている。また、利用者、グループ職員は、とても辛い気持ちになった事をお詫びしたい。今後も、もっと虐待について 啓発活動と厳しい目を持ち職員指導に当たりたい。

・クラブ活動については午前午後と実施したが歩くことが中心となっていたので、来年度は、活動内容を充実し、『働く事』を体験して頂きたいと思う。

・マシン運動も定期的に午後実施出来ていたが、利用者個々の取り組みや、感染症の流行で出来なくなってしまう、利用者に迷惑をかけてしまった。

・健康面において、感染性胃腸炎などの感染症を発症する事案もあり、感染症予防の徹底を図る必要性を強く感じた。

・口腔ケアや清掃、除菌などの感染症予防を引き続き継続し、再発のないように努力する。

・利用者の健康面においては生活習慣病の予防、社会生活を営む為に必要な機能の維持及び向上を図る取り組みを続けたい。

(久保宏子、荒瀬好司、若床まゆみ、竹間和輝、濱本 豊、見土 唯
熊澤誠治、上川清美、藤本将太郎、金田和夫、森宗明浩、川本亜由美)

3 レインボーグループ

1 グループ目標

・言語的、非言語的コミュニケーションのあり方を取り入れた対応をし、安定して穏やかに生活できるよう個別配慮をした支援をする。

・体力作り、健康保持を考慮したプログラムを考える。

・安全で清潔な生活環境を提供する。

・楽しみのある生活を送る。

2 生活

1) 生活全般

①目的：基本的生活習慣の確立を目指す。

・生き活きとした生活を送られるよう支援する。

・体力低下の防止、健康維持に努める。

②内容

食 事：ゆっくり・美味しく、一人ひとりにあった支援をモットーに個別配慮をおこなった。

入 浴：グループ毎の入浴になり、個々のペースにあわせた誘導、支援をする。支援しながら洗髪、洗体の自立を目指す。また怪我や皮膚疾患等無いか、全身のチェックを行った。

排 泄：個々に応じた排泄誘導、確認による健康状態の把握に努めた。

・排泄後の支援（ちり紙を渡す）を行う。

・朝食後、昼食後に全員排便誘導を行い習慣付を目指した。

・排便確認表を見やすく改善した。

運 動：午前の集い前ラジオ体操第1、午後の集い前ラジオ体操第2を行った。

寝 具：週一回日曜日にシーツ交換、また日常的な汚れはその都度交換した。布団乾燥機を使用して毎日2名ずつ布団の乾燥を行った。天気の良い日には出来るだけ外に干した。

・必要に応じて失禁のある人には、ラバーシーツを使用。

・午睡用にリビングに夏タオルケット、冬は毛布5枚を共有の物として使用した。

衣 類：年2回の衣替え・適宜補充。季節に応じた衣類調整等の気配りをし衣替えの時期は、ケース担当に声掛けをして交換補充を行った。身だしなみに気をつけた。ミシン補修できる物に付いては適宜補修を行った。ソックス専用のケースを購入し倉庫に保管した。

日用品：在庫確認による常備。早めの発注を心掛けた。

掃 除：掃除の徹底による安全、清潔な生活空間の確保。感染症予防。

- ・専用の床用モップ10枚、窓・ノブ・机等用5枚、台車を用意した。
- ・床拭き（午前、午後、準夜帯）＊ 感染症発症時 … ピューラックス
その他の期間 … オキシヴィルファイブ
- ・居室床拭き、ドアノブ拭き、窓拭き（一日1回、随時）
- ・トイレ掃除（一日3回）

手洗い：飲食前・外出後・クラブ活動後、手を添えシャボネットを泡立てる等、個別支援により確実な手洗いを行った。手指乾燥機による確実な拭き取り。食事前と間食前のジェスパ。

顔拭き：毎朝、朝食後に濡れタオルでの顔拭きを行った。

髭剃り：起床後、個人用の電気カミソリでの髭剃り実施。

散 髪：月に1度定期的の実施。個々にあった髪型にする。

薬付け：入浴後、処置記録表を元に確実に実施。個別に、点眼薬や、皮膚疾患への薬の塗布を、食後、決まった時間に行った。すり傷、切り傷等の消毒や軟膏塗布については、その利用者の状況に応じて医務との連携を取り処置をした。

加 湿：感染症予防対策でクリーンボーイによる加湿を冬場1日2回行った。

服 薬：3食共に服薬は食堂で食後に行った。2名での与薬確認をし誤薬には注意した。

③経過、課題

- ・利用者の健康状態の観察が年々必要になっている。身体の変調等、日頃の様子観察をし、看護との連携を取る。細かいことでも看護に相談を行い、迅速な対応を行っていく。
- ・着衣のみだれ、衣類の補修、補充、季節に合った衣類などを迅速に対応し身だしなみに気をつけ快適な生活を送る。
- ・生活環境を清潔にし感染症を発症させないように掃除を徹底する。

2) 口腔ケア

①目的：口腔衛生を保ち、歯周病を予防し健康な生活につなげる。

②内容：毎食後の歯磨き実施。今年度もヘッドレスト付きリクライニングチェアを購入し、座ってもらっての仕上げ歯みがきを行った。

- ・適時、歯ブラシの交換。
- ・毎日2名ずつ、口腔ケアを行いコンクールでブラッシングをし、歯周病防止に努めた。また口腔モニタリングシートに記録を行い、看護との連携を行った。
- ・外出後にはイソジンによる口腔内消毒。
- ・歯ブラシは、朝食、昼食後は滅菌消毒器で消毒、夕食後はピューラックス薄め液で消毒殺菌を行った。
- ・歯ブラシを、毛先が細くより繊細に磨きやすい物に交換し、歯磨き支援を行った。

③経過、課題

- ・細やかなケアにより歯周病を予防する。
- ・高齢化に伴い嚥下や咀嚼機能の低下を早急に発見し、さらなる悪化を防ぐ。

3) 活動

①目的：利用者が安定して活動しやすい場と活動プログラムを充実させ、確実に活動できる環境を提供する。

- ・スムーズに活動できるよう準備や配慮を行う。
- ・個々に合ったことを楽しみながら行い、安定を図る。

②内容：月曜日～金曜日の午前、午後

- ・きのこクラブ …… ホダ木の移動、植菌、水槽浸け、水槽上げ、椎茸の収穫、乾燥。
落ち葉・草集め・枝木の整理。
(雨天、プレイルーム雑巾掛け、冬季はセンター内ウォーキング)
- ・生き生きクラブ…… 室内清掃、ウォーキング (雨天、冬季は室内ウォーキング)
- ・ガーデンクラブ …… 水やり、芝桜の植栽 (雨天、冬季はセンター内ウォーキング、)

③経過、課題

- ・きのこクラブは原木の運搬を中心にを行い、水槽付け、水槽上げ、天地返しを行い、昨年度同様に単管パイプ設置場所に原木をふせ込んだ。
- ・収穫した椎茸の殆どは生椎茸として販売をした。
- ・生き生きクラブは運動中心メニューから日常生活動作による運動を取り入れ生活棟内の窓拭きを中心にタオル畳みも取り入れてそれぞれの利用者に合わせた取り組みを行った。
- ・ガーデンクラブは芝桜の植栽をきのこクラブ数名の利用者が参加をし秋季に移植を行った。
- ・学園周りに設置したプランターの植物にも適宜水やりを行いウォーキングと併せて取り組んだ。
- ・昨年度に行っていた慰労を兼ねた月末バスドライブを今年度は、実施しなかった為、何らかの形で評価、慰労する会を設けた方が良いと感じた。

4) 環境

①目的：怪我のない安全な空間を提供する。利用者が楽しみを持って生活出来る環境作り。

- ・破損した物の交換。

②内容：破壊行為等による破損は営繕係と協力をして早めに対処を行った。

- ・鍵など開けにくくなっているドアノブの調整と交換。ドアクローザーの交換。

③経過、課題：ドアノブの確認10月実施。破損と劣化による故障の調査を随時行った。

- ・ベッドの更新10月 (2台) 28年2月 (2台)、畳みから、ベッドに変更 (1名)
- ・破損箇所については随時営繕係と協力をしてスピーディーな修繕を行えたと思う。
- ・今後も利用者が破壊に至らない支援を前提に不測の事態には早い修繕が出来るよう再度必要物品の補充を行っていく。

5) ブログ

①目的：ホームページのブログを通じて利用者の生活や様子を、家族や各方面に発信する。

②内容：行事や日課、日々の生活風景等を毎日紹介した。

③経過・課題：撮影対象者の一ヶ月ごとの予定表を作成した。その日の対象者以外で良いシーンが在れば優先し掲載をおこなった。

- ・不適切な表現にならないように注意しながらレインボーグループでの生活や活動の様子を紹介した。
- ・より充実した内容となるように、画面や配色、文字校正など、色々なところに視点を置いた。

- ・ご家族の方も楽しみにされているので、グループ職員全体が写真や文章など、今よりもわかりやすく工夫していくスキルを身に付けていく事が今後の課題である。

6) 日課、日誌

①目的：日課を変更毎に更新を行った。

- ・ 確実、かつスムーズに支援する為の日課表の作成を心掛けた。
- ・ 利用者の状況や確実な支援が行える為の日誌様式の変更を行った。

②内容：一日の流れと勤務形態を分かりやすく記載した。

- ・ 利用者の動きや日課の流れを確認して記載した。
- ・ ミスの起こらない支援ができるよう、各マニュアルの変更と徹底化を行った。
- ・ 居室への施錠記録欄を追記した。
- ・ 日中の食数や夜勤4名に従い、申し送りの時間や夜勤Lの追加を行った。
- ・ 利用者の状況に応じて変更を行った。

③経過・課題：定期的に日誌様式の見直しを行った。今後も行っていく。

7) 記録

①目的：写真を、利用者が理解できる形で提供し、生活を振り返ったり、行事や外出などの思い出を楽しんで頂く。

②内容：破られる事に無ないように窓の外にボードを作成して、写真を変え掲示した。

③経過、課題：写真を貼るボードが、壊れたりして職員室にて掲示したが、気にされる利用者には、何度か剥がされることもあり、様子を見ることもあった。

- ・ 判りやすい写真を掲示したと思うが、何人かの利用者にしからず理解してもらえなく、偏っていたと思われる。職員からの関わりも少なかった。
- ・ 職員も積極的に関わり良い思い出になるような写真を残していく。

8) 処遇改善

①目的：業務の省力化、効率化、見直し。

- ・ 情報の交換や提案を行う。

②内容：施設内メールの掲示板を活用して、情報の交換や提案、職員への周知を行い、業務の改善に役立てる。アンケートを実施し、情報を集めて来年度へ向けて活用する。

③経過・課題：日課や取り組みの変更、利用者対応の情報など、さまざまな懸案事項について、勤務日以外の職員にも毎日の様子や経過を伝えたり、改善案を提案してもらう事で、業務の改善に役立ったと思う。

- ・ まだ効率悪く仕事をしている所があると思うが、時間や対応の難しさ等の様々な理由で改善が出来ていない面も多くある。
- ・ 問い掛けに対し、意見が出にくい課題がある。
- ・ 日々、改善出来る事はないか考えながら業務をおこない、職員からの改善提案を出し易い方法を模索していく。

3 行事

1) 誕生者外出

①目的：誕生日を迎えた事を感じてもらう。

- ・ 誕生日に担当職員と外出やお祝い会を行い、親睦を深めてお祝いをする。

②内容：誕生日の日（もしくは近日）に午後から外出をする。

外出日	年齢	外出先
4月4日	42歳	センター宿泊室、風季舎
4月16日	50歳	遊歩道、センター宿泊室
4月23日	40歳	マクドナルド、県民の森
6月17日	38歳	セブンイレブン、三次公園
6月30日	47歳	カドーベーカーリー、センター宿泊室
7月27日	67歳	学校食堂（神石郡三和、元井関小学校）
7月27日	49歳	学校食堂（神石郡三和、元井関小学校）
8月5日	51歳	CCプラザ、みよし運動公園
8月8日	41歳	ザ・ビッグ、喫茶店
8月31日	47歳	三次公園・コンビニ
9月28日	53歳	ビック庄原店から センター宿泊室、学園周りに変更
10月9日	42歳	たたらば壺番地
11月3日	44歳	ジョイフル
11月10日	47歳	CCプラザ、ナガタニ、三次公園
11月24日	45歳	センター宿泊室、学園周り
11月26日	49歳	センター宿泊室、学園周り
11月30日	49歳	センター宿泊室
12月13日	42歳	喫茶ヴァイン
12月27日	43歳	カドーベーカーリー、センター宿泊室
1月19日	46歳	セブンイレブン、市内ドライブ
2月10日	28歳	セブンイレブン、センター宿泊室
2月15日	37歳	ナフコ、ナガタニ、セブンイレブン

③経過、課題

・誕生日である事を理解してもらい、年齢や興味など、個々の利用者に合った外出を計画していく事が課題である。

2) レクリエーション

①目的：季節感のあるレクリエーションを提供する。

②内容：レインボー会議のある日の午後に、季節に応じたレクリエーションを行う。

実施日	行事名	場所	内容
4月10日	お花見会	風土記の丘	お弁当会食 散歩
8月7日	夏祭り	センタープレイルーム	カラオケ、焼き鳥、スイカ割り
12月4日	忘年会	センタープレイルーム	会食、スライド上映
1月9日	新年会	センタープレイルーム	会食、ゲーム
3月7日	お楽しみ会	センタープレイルーム	カラオケ、パフェ作り

③経過、課題

・天候が悪く、予定通りにならない事もあったが、花見、夏祭り、季節を感じて頂ける事が出来たと思う。

3) バスドライブ・バスハイキング

①目的：ドライブすることによって気分転換を図る。

- ・普段と違う場所での散策を楽しむ。

②内容：レインボー会議のある日の午後にマイクロバスと8人乗りワゴンに分乗してドライブ。

- ・昼食のお弁当や間食を持って行き、山や公園で食べたり、散歩や遊具で楽しんでもらった。

実施日	行き先	参加人数
5月1日	君田子ども遊園地	10名
5月7日	風土記の丘	21名
6月6日	灰塚ダム記念公園	21名
7月6日	鮎の里	21名
9月7日	三次運動公園	22名
11月5日	風土記の丘	22名
2月4日	北の関宿	19名

③経過、課題

・怪我等での不参加や、特に2月の外出では4名の体調不良者があり、全員で参加できたのは9月と11月の2回だけであった。

- ・散策や遊具で遊ぶ時間をしっかり取り、のんびりとした時間を過ごせてもらえた。
- ・利用者は特別の間食や出掛ける事自体を毎回楽しみにしていた。
- ・季節によっては感染症対策の為、無理のない外出を計画した。

4) 外出

①目的

カフェ外出

- ・外出することにより気分転換をはかり、通常生活の励みにする。

お楽しみ外出

- ・好きな昼食を食べ、一日をゆっくりと過ごし、気分転換を図る。
- ・色々な経験の場を提供する。
- ・食べること以外の楽しい体験をしてもらう。

宿泊旅行

- ・ドライブや観光を通して気分転換を行い、学園生活の励みになるような時間を過ごす。
- ・旅行を通して学園では出来ない体験をしてもらい楽しく過ごしてもらう。
- ・職員と利用者が寝食を共にすることで、学園では見られない様子や表情を感じ親睦を深める。

②内容

- ・カフェ外出は平日（主に火曜日）の午後

お楽しみ外出（一日を通して楽しいことを体験してもらう外出）

宿泊旅行（1泊2日 宿泊）

実施日	内容
4月 21日	カフェ外出：たかの道の駅、そらら
5月 12日	カフェ外出：品の滝(三次市甲奴町)

5月	14・15日	宿泊旅行：岡山方面（鶴形山公園 岡山城 後樂園）
5月	19日	カフェ外出：三次カルチャーセンター
5月	25日	お楽しみ外出：キララ多岐
6月	9日	カフェ外出：作木図書館
6月	11・12日	宿泊旅行：山口方面（片添ヶ浜海浜公園・錦帯橋）
6月	23日	カフェ外出：県立みよし公園
7月	14日	カフェ外出：世羅ゆめ公園
7月	24日	カフェ外出：県立みよし公園
7月	28日	カフェ外出：県立みよし公園、モスバーガー
8月	18日	カフェ外出：県立みよし公園
8月	20日	お楽しみ外出：マリーナホップ
8月	27日	お楽しみ外出：島根県出雲市
9月	8日	カフェ外出：庄原 ザ・ビッグ
9月	11日	お楽しみ外出：世羅ジョイフル、ゆめ公園
9月	17日	お楽しみ外出：イオン世羅店
10月	1日	お楽しみ外出：しまね海洋館アクアス
10月	14日	お楽しみ外出：玉造温泉・玉造史跡公園
10月	27・28日	宿泊旅行：島根県松江市
11月	17日	カフェ外出：作木図書館
12月	8日	カフェ外出：サイン428、口和総合運動公園
12月	22日	カフェ外出：Cafe mame茶（三良坂町）

③経過、課題

- ・利用者の方は、外出をととても楽しまれていた。
- ・利用者の好みや興味にあわせた外出を計画できたかは分からないが、楽しんで過ごして貰う事は出来ていたと思う。
- ・今年度はランチ外出、スケッチ外出を廃止し、カフェ外出とお楽しみ外出、宿泊旅行を行った。
- ・宿泊旅行はメンバーを減少、前年度4回だったものを3回にして行った。

5) レインボーレクリエーション

平成27年10月12日（月）利用者22名 18家族33名参加

①目的：利用者、ご家族、職員の親睦を深め、楽しい時間を一緒に過ごす。

②場所：ハイツカ湖畔の森レストラン

③内容

・ご家族の方々には現地集合で案内した。また、JR利用の4家族については三次駅まで学園車両が迎えに行き、自家用車では参加されるが、現地が分からないと言われる、5家族の方と三次市役所三良坂支所で合流し、現地に案内した。ただ、自家用車で参加の2家族については一度来園し、学園車両に同行したいとの希望であった。

・利用者は学園車両で移動後、レストランにてご家族と合流した。

受付後、レストラン内でオリエンテーション。

記念品用のフォトフレーム作製（既製品のフレームをステッカーで飾り付ける。）

個別面談（7家族）

昼食（事前に2種類のセットメニューの中から希望をとった。）

手作りピザ体験・写真撮影（生地を成形し、具材をトッピングする。）

コイン入れゲーム（水を入れた水槽内にコップを配置し、その中目掛け、コインを投げ入れる。：
レストランテラス）

間食（手作りピザと飲み物 ※飲み物は事前に4種類の中から希望をとる。）

閉会

④経過・課題

・昼食は2種類のセットメニューから事前に希望を聞き、レストラン側とは入念に打ち合わせしていたにも関わらず、レストランスタッフの人員不足や不手際等で、提供が大幅に遅れ、全員に行き届くまで、かなりの時間を要した。また、その影響で料理が冷えたり、セットが同時に提供出来ない等の事態が発生し、参加者には申し訳無い結果となった。改めて、一度に65名分の食事を提供することがいかに困難かを認識した。

・個別面談は事前にスケジュールを組んでいたが、開始時間が遅れた事で、希望される9家族全ての面談が出来ず、7家族のみの面談となってしまった。

・当日は生憎の雨天であったが、ゲームの時間には雨もあがり、屋外で実施でき、楽しんで頂いた。

・各ご家族毎のピザ作りの作業風景を写真撮影し、印刷後、フォトフレームに入れ、閉会時に各ご家族にお配りしたが、とても喜んでおられた。

4 グループ会議

①目的：利用者のQOLを高めるため、個別処遇、日課、環境、各活動について課題を定義検討し、取り組みについての意識統一を図る。

②内容

4月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 行事について クラブ活動について
衣類整理について 食後の排便誘導について 利用者についての再確認
ケースカンファレンス（2名）

5月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 人権委員より 行事について
クラブ活動 布団の収納、布団敷きについて 汚物処理機の使用について
ケースカンファレンス（3名）

6月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 クラブ活動 弁償衣類について
ひげ剃り支援について 排便確認表について ケースカンファレンス（4名）

7月 運営会議・処遇会議からの補足事項 虐待防止委員会 出張報告 行事について マシン
福祉の森の記録について 食堂掃除について ケースカンファレンス（5名）

8月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 日課の時間について
スポレク祭について ケースカンファレンス（3名）

9月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 行事について クラブ活動
衣類整理について レインボーレクについて ベッドの更新 食事場所について
緊急時の夜間対応の流れ ケースカンファレンス（9名）

10月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 レインボーレクについて
クラブ活動 薬の服用、薬袋について ケースカンファレンス（5名）

11月 運営会議・支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 行事について クラブ活動

- 日課の確認 文化祭、発表会について 排便確認について ケースカンファレンス（3名）
- 12月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 衣類整理について
ベッドの更新 感染症対策（ノロウィルス演習）頓服の服用 4人夜勤について
ケースカンファレンス（3名）
- 1月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 排便確認の方法 腹囲測定 感染症対策
虐待防止委員会(虐待事案の経緯説明、質疑応答) 夜間リーダーの動きについて
食事支援について ケースカンファレンス（2名）
- 2月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 感染症対策での意見
様子連絡について 食事支援について アセスメントの実施 顔拭きタオルの洗濯
ケースカンファレンス（5名）
- 3月 運営会議、支援部課長会議からの補足事項 虐待防止委員会 来年度の行事について
クラブ活動 リビングの使い方について 食堂のテーブル配置 早出の10分休憩について
事業報告について 業務目標・成果シート ケースカンファレンス（3名）

③経過、課題

・グループ会議は夜勤入り、明け以外の欠席者が出ないように前もって予定を聞き会議の日にちを調整した。前もって意見を求める事が出来ていなかった為、限られた時間内では結論が出ず次回への持ち越しとなるが多かった。

議題の提案を早く出しそれぞれが考えをまとめて参加できるよう働き掛けていく。

また、限られた時間を有効に使えるようスムーズな会議の進行も行わないといけない。

・ケースカンファレンスは、利用者の状態により、支援方法や取り組みの意見交換を行い、支援方法の統一を図った。また、ケース担当者会議で変更になった取り組み等の再確認を行った。

・利用者のより良い生活が送られるようにという職員の思いは皆同じなので、今後も活発な意見を出し合い討論出来る場にしていきたい。

5 まとめ

・クラブ活動として月～金まで、午前午後と活動を行っていきかけたが、職員の減少や、興奮する利用者への個別対応等あり、なかなか午後からのクラブ活動が出来なかった。

・食事のセルフサービスについては定着しスムーズに行える様になった。しかし、食事場面でも個別に支援が必要な利用者が多い為、できるだけ1対1での対応出来る様に食事時間に少し差を付けるなどして支援を行った。

・利用者が入院するといった大きな怪我はなかったが、他傷、自傷等での怪我は多く、見守り支援や個別対応が必要だった。また、1名の利用者は入院して薬の見直しをしてもらっている。

・今年度は、ノロウィルスの感染により、15名の利用者が罹患し自室での静養となった。

・環境面ではベッドの更新、サッシの改修、傷んだ壁にキッチンパネルを取り付けて貰った。

・健康面では看護と連携を取り、異常の早期発見、対応に努めた。

・来年度も、利用者が安心して快適に過ごせる環境作りを行っていく。また個々に応じた方法で体力を維持し、健康に過ごしてもらえよう看護とも連携して取り組んでいきたい。

(藤田由香里、岩戸洋三、堂西美保、高場修治、魚見敏満、桑田樹実、
菅原献司、林 宏典、竹林祐樹、今田弘之、中野基行)

4 はなまるグループ

1 グループ目標

- ・利用者の個性や行動を理解し、自己選択、自己決定を尊重し、健康で豊かな生活を支援する。
- ・清潔で安心して生活して頂ける個別配慮された環境を提供する。

2 生活

1) 環境改善

- ①目標：快適かつ個別配慮された生活環境の整備を行う。
 - ・建物、建具の損傷、改善に努め、補修、交換、修繕、改良を行う。
- ②内容：1日に廊下を3回、窓やドアノブを2回、居室を1回、掃除を行った。
 - ・冬場は換気も含め5分程度窓を開け空気の入換えを行った。
 - ・定例外泊時には掃除場所を決め普段行き届かない所の掃除を行った。
 - ・フィルター、排煙窓の網戸の清掃を行った。
 - ・リビングにあるホワイトボード、デスクセット一式を更新した。
- ③まとめ：建具の損傷については確認した上、営繕係に対応してもらった。電灯が切れたヶ所はその都度交換した
 - ・廊下やリビングなどの共有部分は季節感を出すように配慮していきたい。
 - ・冬季や感染症が流行っている時期は、随時加湿機能付き空気清浄機を使用し加湿した。
 - ・廊下、窓やノブ、居室の掃除を入念に行うことで感染症を防ぐ事ができた。

2) 衛生・口腔ケア

- ①目的：感染予防と対応
 - ・健康維持
- ②内容：入浴後も含め指示された軟膏塗布・消毒を看護のチェック表に基づき確実にを行った。
 - ・個々の健康状態の把握に努め、看護との連携を深め、迅速な処置、必要な受診を速やかに実行できる体制作りに努めた。
 - ・午前、午後の活動後や食事の手洗いうがいの実施、手指消毒を徹底した。
 - ・毎月1回体組成測定を行い、健康管理に努めた。
 - ・歯磨き支援として毎月2回、24名全員行い、口腔内のチェックを実施した。チェック表を看護職員と共有する事で速やかに歯科受診の検討をしてもらった。
 - ・毎週土曜日に爪切り、日曜日に血圧測定を実施した。
 - ・夕食後の歯磨き終了後、全員の歯ブラシをピューラックス液に浸け、消毒を行った。
 - ・昼食後と夕食後は全員仕上げ磨きを行った。
 - ・歯ブラシの毛先が開いたら交換する。
 - ・床拭きやドアノブ等をオキシヴィルファイヴを使用し1日2回行い、感染予防を徹底した。
 - ・季節の変わり目には、衣類整理、布団干し等を行った。
- ③まとめ：入浴後の軟膏塗布はチェック表を使用し確実にを行った。
 - ・体調の悪い人には早めに対応し配慮できたが、自分から体調の不調を訴えることが難しい方に対しては日頃の様子観察から把握する。
 - ・手洗いうがい、手指消毒を徹底して行ったことで、体調を崩すケースは少なかった。
 - ・毎週土曜日の爪切り、日曜日の血圧測定は衛生と健康状態の把握の1つになった。

- ・月2回、口腔状態の観察で、虫歯の発見や、口内炎の発見、看護と情報を共有し早めに歯科受診が出来るようになった。
- ・仕上げ磨きの回数を増やすことで出血など口腔内でのトラブルも減少している。
- ・今後も食事や睡眠時間、口腔ケアに注意し、毎日の生活が精神的、肉体的に安定した状態で規則正しい生活で過ごして頂けるように努めたい。
- ・天候が良い日には布団を中庭に干すことが出来、皮膚疾患の利用者が少なかった。

3 処遇改善

- ①目的：日課の見直しを随時行い、利用者の皆さんが過ごしやすくなるようにする。
 - ・個別の取り組み等、日課の中に取り込みスムーズに実施できるようにする。
- ②内容：随時、会議が社内メールを利用して検討、改善を行った。
- ③課題：リハビリの時間やできない人への個別配慮。
 - ・個別に配慮が必要な人の対応の統一、入浴時間の明確化。

4 午後日課

- ①目的：規則正しい生活をする事によって、生活のリズムを身に付ける。
 - ・健康的で潤いのある生活が送られるようにする。
 - ・体力測定を行い利用者の身体能力を把握し、運動器具を有効に活用し身体の健康と残存能力を維持する。
 - ・スポーツや畑作りを取り入れ、精神的なストレスを緩和し心の健康を図る。
- ②内容：運動
 - ・マシン
 - ・創造活動
- ③まとめ：午後の活動について、運動とウォーキングをメインに行った。
 - ・運動では球技や自転車などを行った。また球技大会が近い時は、出場する種目であるフライングディスクやゲート通しの練習を行った。
 - ・ウォーキングは園外を歩く事もあったが、主に園内の遊歩道や学園周りで行った。
 - ・野菜の収穫期には臨機応変に午後からも野菜クラブの活動を行った。
 - ・創造活動は塗り絵や段ボールを使った物作り、季節の行事の飾り作成など、バリエーション豊に色々な事を行った。
 - ・来年度は、きのこクラブの活動の一部（収穫、袋詰め等）も行う為、定期的な午後日課でのクラブ活動も視野に入れて、日課の再編を検討したいと思う。

5 クラブ活動（午前）

- ①目的：活動を通して日課に添った安定した生活の提供と楽しみや、やりがいを感じて頂く。
- ②内容
 - ・クリーンクラブ：5名
衣類たたみ、タオルたたみ、食堂前廊下掃除、脱衣室の床拭き、生活棟の床拭きと窓ふき
軍手洗い、軍手干し、軍手を束ねる、洗濯室の掃除、乾燥機の掃除
 - ・リサイクルクラブ：9名
缶リサイクル：空き缶の収集、分別、缶潰し、売却
紙リサイクル：新聞と広告の分別、段ボールの整理、売却
 - ・紙クラブ：5名

牛乳パック和紙作り：牛乳パックを洗う、切る、剥がす、契る、紙漉、細工、乾燥

・野菜クラブ：4名

種まき、移植、畑作り、収穫、水やり、草抜き、溝掃除、倒木の整理

③まとめ：活動中に椅子に座ろうとして転倒、病院へ行くことあった。

・口論等トラブルになることもあった。関係を配慮して随時、所属クラブの変更を行った。

・リサイクルクラブは業務用扇風機を購入、作業しやすい環境の整備を行った。

④課題：雨天時の活動の充実

・午後からの活動も検討

6 行事

1) グループ行事

①目標：季節の良い時期は出来るだけ外出し、感染症などの流行る時期は学園内で行いメリハリの
ある生活を送る。

・季節に合う行事を行う。

②内容

月	日	行事名	場所
4	11	花見会	君田がんばり園
5	2	ドライブ外出	千代田運動公園
5	9	ハイキング	岩屋寺
6	5	バスドライブ	風土記の丘
7	4	バスドライブ	道の駅、北の関宿
7	8	野球観戦	三次きんさいスタジアム
8	5	納涼祭	ともえ学園、多目的棟
9	5	バスドライブ	河童公園
9	19	フライングディスク	山口大会
10	11	レクリエーション	ともえ学園、プレイルーム
11	3	藤兼祭	藤兼神社及び藤兼地区
11	7	ハイキング	備北丘陵公園
12	7	忘年会	ともえ学園、プレイルーム
1	8	新年会	ともえ学園、プレイルーム
2	8	バスドライブ	道の駅、北の関宿
3	3	お楽しみ会	ともえ学園、プレイルーム

③まとめ

・四季を感じていただける行事を提供できたと思う。

・外で間食を摂ることで学園生活に潤いを与える。

・はなまるレクリエーションでは家族が多数参加され、楽しかったとご意見をいただいた。

2) 宿泊旅行

①目的

・宿泊旅行でしか経験できない体験や見学を行う。

②内容

月 日	参加人数	場 所
5月27日～28日	4名	MAZDA Zoom-Zoom スタジアム (カーブ観戦)
6月10日～11日	4名	安佐動物園、みやじマリン水族館
7月16日～17日	4名	倉敷美観地区、岡山後樂園
9月23日～24日	3名	カプトガニ博物館、渋川マリン水族館
10月28日～29日	4名	岩国錦帯橋、宮島
3月17日～18日	4名	皆生温泉、米子イオン

③まとめ

- ・出来るだけ利用者の意見を尊重し起案出来たと思う。
- ・宿泊旅行でしか体験できない場所や見学も出来たと感じた。
- ・職員の負担なども考慮し宿泊旅行そのものを検討する必要がある。

3) 外出 (お楽しみ外出/日帰り旅行)

①目的

- ・お楽しみ外出：嗜好の合う2名以下で参加し行動することで安定した生活に繋げる。
- ・日帰り旅行：社会性を身につける

②内容

(日帰り旅行)

実 施 日	参加人数	場 所
6月22日	3名	島根海洋館アクアス
7月23日	3名	プローバ、フジグラン緑井
8月21日	3名	広島県立美術館
9月10日	3名	大山乗馬センター
10月19日	6名	島根海洋館アクアス
11月25日	3名	呉大和ミュージアム
12月 3日	3名	尾道市向島
3月12日	3名	広島平和公園

(お楽しみ外出)

実 施 日	参加人数	場 所
4月13日	1名	庄原かんぼの郷
4月17日	1名	福山自動車時計博物館、福山城
4月20日	1名	藍泉館、フタバ三次店
4月30日	1名	つつじ吉田公園、おたまはん
5月14日	1名	広島城、ソレイユ
5月21日	1名	島根県雲南市
6月 1日	1名	イオンモール広島祇園
6月25日	1名	ゆめタウン吉田店

7月9日	2名	平光さんの自宅、イオンモール府中
8月26日	2名	布野保健福祉センタープール
9月4日	2名	宮島
10月5日	2名	三瓶山
12月15日	2名	ゆめタウン吉田店
12月17日	2名	三次市立図書館、サングリーン
3月8日	2名	かんぽの郷、ザ・ビッグ
3月20日	1名	三次市民ホール きりり

③まとめ

- ・出来るだけ利用者の意見を尊重し発語の不十分な方々には個人に合う場所の設定に努めた。
- ・今年度は冬の感染症の流行する時期の外出を控えたため、お楽しみ外出は2名での参加になる場合もあった。
- ・誕生者外出からお楽しみ外出に変更したのは1対1の外出では、職員がトイレなどに行くことも出来ない場合があり利用者の安全確保の目的も含む。

7 グループ会議

①目的：利用者の生活向上と充実したサービスの提供を目指し、環境・個別処遇・各活動について課題を提起検討する。

- ・ケースカンファレンスを行い、支援についての意識統一と利用者に対する理解を深める。
- ・各部署との意見交換、情報交換、協議。

②内容

- 4月 虐待防止について、クラブ活動、球技大会について、日課について、ケースカンファレンス
- 5月 午後の活動について、クラブ活動について、センター掃除について、その他
- 6月 虐待防止について、クラブ活動について、運動について、ケースカンファレンス
- 7月 午前の間食、創造活動について、利用者の歯ブラシについて、ケースカンファレンス
- 8月 挨拶運動について、食堂の座席について、クラブ活動について、ケースカンファレンス
- 9月 運動、レクリエーションについて、文化祭、発表会について、ケースカンファレンス
- 10月 トイレトペーパーの使用状況、衣替えについて、ケースカンファレンス、レクについて
- 11月 ケースカンファレンス、食堂テーブル・椅子について、夜勤4人体制について
- 12月 感染症対策について、虐待問題について、ケースカンファレンス
- 1月 虐待について、勤務態勢について、ケースカンファレンス
- 2月 来年度のクラブ活動について、ケースカンファレンス
- 3月 来年度の行事について、業務内容について、ケースカンファレンス

③経過・課題

- ・グループ内での確認事項をサイボーズで共有すること、ケース担当者会議の開催などにより、会議においてディスカッションを行う時間が増えたと感じる。より活発な意見が出るよう、進行役としてのスキルを上げる必要があると感じた。
- ・会議の中で研修を行う試みも行ったが、資料の作成など十分に時間をかけられなかった為、内容を伝えきれなかった事は反省に上げられる。
- ・虐待などの人権問題に対するディスカッションを今後は増やしていきたい。

8 まとめ

- ・今年度は3名の職員の異動があり、利用者にとっては少し戸惑う面があったと思われる。
- ・午前のクラブ活動は前年度に引き続き行ったが、午後からの園外でのウォーキング（君田分かれまで）は安全面の問題などもあり中止となった。その他に、創造活動や運動などを午後の日課に取り入れ、利用者の個性や能力を引き出せるような取り組みを行った。
- ・創造活動のメニュー充実や個人の能力に合った運動プログラムの提供が今後の課題となる。
- ・今年度学園では感染症が流行り、個室対応となる利用者の方も多く出たが、はなまるグループにおいては発症者もなく元気に過ごすことが出来た。日々の手洗いやうがいの励行が効果として現れていたように感じる。加湿器の追加や、これまであまり手が行き届いていなかった生活棟内の清掃を、クリーンクラブの利用者の方と行ったことも良い結果を導いた要因となったと考える。
- ・利用者の高齢化を見据えた支援を行う必要性が出て来ていることもあり、より専門性を高め、利用者の皆さんやご家族に求められる職員となれるよう努力したい。

（塚本博志、福永真也、山地恵子、渡邊 武、掛川陽介、中岡健太郎

藤 頼久、藤井 秀樹、高森 強、瀬戸 彩、佐々木優希、今中竜司）

5 医療

1 バイタルサインのチェック・症状チェック・経過観察について

- ・降圧剤内服中、高血圧、水中毒既往、低血圧による意識消失がある利用者などに対して、1日1～2回の血圧・脈拍のチェックを継続した。血圧値の異常が継続した者に対しては箕岡医師へ報告を行い、内服の調整を行った。
- ・感染症流行時期より、毎朝全利用者の体温測定を実施し、症状が早期発見できるようにつとめた。
- ・感染症流行時期以降も、体温測定を継続して早期対応できるようにしている。

2 受診判断と受診・治療、処置の実施について

- ・緊急の受傷や症状については、経過観察するもの、嘱託医来園時に相談するもの、緊急で受診をするものを判断し、受診の調整を行った。

定期受診しているものに関しては、症状と状態に合わせて定期的に受診を行った。

3 与薬管理・医薬品管理・医療機器管理について

- ・主に定期処方薬の確認と内服薬のセット、使用状況の確認を行った。
- ・個包の錠剤について、チャック式のビニール袋に入れて管理していたが、衛生面とセットする労力を考慮し、分包機を使用して一包化できるものは、医務室で一包化するようになった。
- ・調剤薬局にも協力を依頼し、一包化できるものは依頼するようになった。

4 個別リハビリテーションについて

- ・医療的にリハビリテーションが必要な利用者に該当する者がいないため、機能・体力維持を目的とした体操をグループの日課の中に取り込んでもらい、実施している。

5 フットケア・スキンケアについて

- ・入浴後に全員の足底に保湿クリームを塗布。状態の悪い利用者については、食後や寝る前にも塗布してもらった。また、各グループに保湿クリーム、ワセリンをセットし、乾燥がある利用者には塗布するように依頼し、実施している。

6 口腔の健康、口腔ケア・歯科受診について

- ・毎週火曜日に4～5名ずつ歯科受診を行った。
- ・生活支援員により、各利用者毎月2回ずつ口腔ケアチェックシートに沿って、歯磨き支援が実施された。その結果を参考にし、歯科受診の予定を立てた。
- ・緊急の異常がある者に対してはその都度、報告を受け、歯科へ連絡して受診の調整を行った。

7 感染症予防について

- ・平成28年1月～2月上旬にかけて感染性胃腸炎のような症状がみられる利用者が多数出た。早期より、箕岡内科を受診し、個室対応と簡易検査、内服の処方を行った。
- ・保健所への報告を行い、訪問指導、検便の依頼があり実施。結果、ノロウイルスが検出された。
- ・感染症流行時期より感染時のマニュアル作成を行い、実施に伴いその都度改善や変更を行った。
- ・清掃を次亜塩素酸ナトリウム液によるものへ変更し、方法について話し合い、全体周知を行った。
- ・検温を日常的に行うように変更し、早期発見できるように努めている。

8 自閉症、精神遅滞、統合失調症、発達障害、行動障害、強度行動障害の治療と看護について

- ・状態が不安定な利用者についての相談を受け、対処できないものに関しては嘱託医へ報告し、内服の変更や他院紹介となることもあった。
- ・精神科病院の診察で、支援の方法などのアドバイスを受け、生活支援員と共に生活支援を考え、支援方法の変更を行った。

9 定期健康診断・生活習慣病予防・健康増進・介護予防の実施について

- ・利用者70名に対して1年に1回、心電図、口腔健診、胸部レントゲン、便潜血、便微生物検査、検尿、身長体重測定を行った。
- ・対象者のみ、薬物血中濃度採血を半年毎に実施。

(畠原由美)

6 栄養食生活

1 はじめに

衛生管理に留意しながら利用者の嗜好の尊重、旬の食材の利用や暦の行事食の取り入れによる季節感のあるメニューの提供、また多彩な強化磁器食器を使用し、個々に応じた細やかな配慮のある食事作りに努めた。また、毎日の真空調理の活用で、少数の職員でも複雑なメニューを作成し、提供した。

2 栄養量

生活活動強度は「やや低い」を用い、常食の目標量と実質摂取量は次の表のとおりであった。

	目標量	実質摂取量
エネルギー (kcal)	2,350	2,405
たんぱく質 (g)	76.3	81.0
脂質 (g)	65.3	65.5
カルシウム (mg)	650	636
鉄 (mg)	7.5	11.2
ビタミンA (IU)	2,500	2,778
ビタミンB1 (mg)	1.16	3.48
ビタミンB2 (mg)	1.28	1.31
ビタミンC (mg)	100	145

3 栄養ケアマネジメントの実施

利用者が自立して快適な日常生活を営み、尊厳ある自己実現をめざすためには、利用者一人ひとりの栄養健康状態の維持や食生活の質の向上を図ることが不可欠であることから、個別の栄養健康状態に着目した栄養ケアマネジメントを実施し、アセスメント、栄養ケア計画書の作成、実行、3か月毎の再スクリーニング、モニタリングを行い栄養健康状態の維持や食生活の質の向上に努めた。

4 療養食

糖尿病食、肝臓病食、胃潰瘍食、脂質異常症食、痛風食、腎臓病食、貧血食を利用者の病状に応じて提供した。

5 食事形態

常食・ひと口刻み食・刻み食・ペースト食を利用者に応じて提供した。

9月から、凍結含浸調理法を取り入れて、試行錯誤の段階であるが、見た目は常食と同じ形態でも中まで柔らかく、咀嚼が少なくても食べていただけるように提供を開始した。

6 誕生日お祝い

利用者誕生日には、お祝いとしてコーヒーゼリー、プリン等デザートを作成し提供した。

7 間食

間食は、全グループ統一して午後に提供した。

月1回月末には、手作り間食を提供した。

月	間食名	月	間食名	月	間食名
4	いちごババロア	8	ミルクゼリーピーチソースかけ	12	ぜんざい
5	フルーツサンドイッチ	9	南瓜ケーキ	1	パンプディング
6	サイダー割梅酒ゼリー	10	スイートポテト	2	ぜんざい
7	ビールゼリー	11	人参蒸しパン	3	コーヒープリン

8 正月料理

元旦昼食に雑煮、そしてお節料理を正月三が日提供した。

(後田喜代子)

7 事務

1 目標

①事務の正確かつ迅速な処理を行い、学園内外の連絡調整を緊密にし円滑化する。

②外来者に対して常に明るく笑顔で接し、適切且つ迅速な対応に心がける。

③電話対応では明確な対応に心がけ、速やかにかつ丁寧に対処する。

④必要な情報の共有と公開を積極的に行い、円滑な事業の推進に寄与する。

⑤OA機器の活用を推進し、業務省力化を図る。

2 内容

①事務

・支援費の請求、窓口での受付、入退所手続き、療育手帳・保険証・重度障害者医療受給者証・自立支援医療受給者証の管理、各種印刷物の作成、行政機関との連絡調整、その他

②庶務

- ・文書收受・発送、福利厚生、パソコン・プリンター・コードレスホンの管理、その他

③経理

- ・財務会計処理、利用料等の請求、親の会会計、親睦会の会計、物品購入、職員給与計算、調査統計、出張命令稟議書の作成、その他

3 まとめ

上記の業務については社会福祉法人ともえ会の諸規程、ともえ学園内規を基本として日々行った。

これからも原理原則を基本に、利用者、利用者家族、職員に信頼され、厳正でかつ平等に日々遅滞なく確実に遂行していきたい。

(高田孝康・清政圭子)

8 防災管理

1 目的

- ・災害発生時は、速やかで適切な対処となるよう危機管理体制を充実させる。
- ・消防訓練を反復し疑似体験を積むことを重要とし訓練を積む。
- ・緊急時への対応能力向上を図る。

2 新任職員対象の防災研修会の実施

1) 研修内容

①利用者不明時の対応

日勤帯、夜勤帯の連絡方法など・施錠個所の確認・危険物の取り扱いと理念

日常的な利用者の所在確認と注意事項

②消防関係：「防災マニュアル」を資料として基礎知識を習得

消防設備及び施設設備を実地見学

③AED、人工呼吸器、吸引掃除機の設置場所、操作説明

3 緊急時の対応

「吸引掃除機」を食堂の手洗いの下に、いつでも使用出来る状態で保管、点検を随時実施。

「人工呼吸器ユニット118番」と「AED」は職員室と医務室に各1台ずつそれぞれ常置。

4 消防訓練実施日

- ①夜間想定総合訓練 5月16日・6月20日・7月15日・8月21日（消防署立ち会い）
9月12日・10月23日・11月13日・12月18日・2月20日・3月14日
※8月、2月 消防署へ消防訓練実施計画書・結果報告書提出

- ②昼間の総合訓練 4月24日 1月も予定していたが、体調不良者が多く中止した。

5 消火器使用：消火器使用未経験者等4名を対象に、消火器を実際に使用して訓練を実施。

実施日時：6月20日…3名、加圧式消火器を使用 6月23日…1名、蓄圧式消火器を使用

6 消防設備定期点検：9月、3月 専門業者に委託し実施

7 消防署立入検査：11月25日 2名来園 … 指摘事項なし

(宮崎静美)

9 安全運転管理

1 目標

- ・交通安全に対する意識を高め、交通ルールの遵守と人に優しい交通マナーを実践し交通事故、交通違反を防止する。

- ・車両の点検、整備を実施し車両の故障、整備不良による事故が発生しないよう注意する。

2 内容

- ・トライザセーフティinひろしまへ10チーム参加

- ・安全運転管理者講習会への参加

- ・安全運転啓発の図書、幟を掲示

- ・各季の交通安全運動の周知

- ・車両の点検、整備を業者に依頼

3 まとめ

- ・トライザセーフティinひろしまへ参加した10チーム中6チームが、150日間無事故、無違反を達成する事ができた。公用車での違反等は無かったのだが、自家用車での違反があった。

安全運転への啓発活動が不足していた事も関係していたように感じる。

注意喚起を増やし安全運転の徹底を図りたい。

- ・定期的な車両点検を実施し、今後も整備不良による事故が発生しないよう注意をしたい。

(塚本博志)

10 危険物取扱者

1 概要

地下タンク貯蔵所の灯油漏れを未然に防ぐため法律で定められた点検を定期的に行っている。

2 内容

毎月、掲示板、漏油検知管、通気管、消火器の有無等の点検を行った。

(後田喜代子)

11 運営会議

実施概要

- ・園長、次長、全ての部課長の8名で構成し、毎月、月初めに開催し協議した。

- ・会議では、利用者主体の指針を見失わないように、問題提起、課題検討、日程調整等を行い、施設のより円滑な運営と利用者サービスの向上を目指した。

- ・資料など、紙は一切使用せず、プロジェクターを利用して、随時必要な情報はインターネットからも収集し会議を進めた。

- ・会議後は速やかに会議録をまとめ、即日、全員に周知した。

(高田孝康)

12 支援部課長会議

1 支援部課長会議（7月に処遇会議という会議名から変更）

- ・支援部長と支援課長の4名で構成し、毎月の月末、翌月の運営会議開催日までに会議日を設け、予定調整や利用者処遇についての協議、意見交換、情報を共有し利用者サービスの向上を目指した。

- ・会議の経過及び結果は会議録を作成し、処遇の統一を図るため全員に周知した。

2 ケース担当者会議

- ・利用者のアセスメントを年に1回実施。ケース担当者会議を毎月実施し、各利用者の施設障害福祉サービス計画1表・2表を年2回作成、半年ごとにモニタリングを実施。
- ・構成は、ケース担当、サービス管理責任者、子鹿医療療育センター相談員、各部署課長、看護師。
- ・毎月会議日を調整し開催して行った。施設障害福祉サービス計画1表・2表作成後には、各ご家族に送付し計画書の承諾を得た。

(宮崎静美)

1 3 朝礼

実施概要

- ・参加者は夜勤者以外の全出勤者とし、職員室を会場として毎日9時から実施した。
- ・開会挨拶、服装と身嗜みのチェックから始まり、各グループ、全体係、その他からの報告、予定などの報告、出勤職員の体調状況の報告、笑顔の練習、最後に閉会挨拶で終了する。
- ・毎月9日にはAEDと人工呼吸器のチェックを行った。
- ・発表者の声の大きさやマイクの位置などを再確認し、さらに聞き取りやすい環境を整えていく。

(高田孝康)

1 4 園内行事

- ・一年を通して季節を感じる行事など、全体で参加出来る行事として毎月学園内で計画実施した。

1 花まつり

- ①日時 平成27年4月8日水曜日10時15分～11時15分 ②場所 療育センター・プレイルーム
会場に設置された花御堂の屋根に花を飾り付けた後に、グループ代表が誕生仏(お釈迦様)に甘茶をかけてお焼香と合掌後、続いて一人ずつ全員が甘茶をかけ、最後に甘茶を頂いてお祝いをした。

2 活動披露会

- ①日時 平成27年5月11日月曜日10時10分～11時20分 ②場所 プレイルーム、多目的棟、畑
各グループ活動の報告後で、グループ順に「サツマイモ植え」「和紙作り」「ひまわりの種え」の体験。終了後には多目的棟に集合しジュースで乾杯した。

3 ミニレク祭

- ①日時 平成27年6月14日日曜日13時50分～15時10分 ②場所 療育センター・プレイルーム
ハンガー、ストロー、牛乳パック等工夫して色んな種類のシャボン玉作りを実施
扇風機の風に流され飛んでいくシャボン玉の様子を見て、参加者からは笑顔が沢山みられた。

4 七夕祭り

- ①日時 平成27年7月7日火曜日14時00分～14時50分 ②場所 療育センター・プレイルーム
係の職員は浴衣を着て雰囲気作りをした。七夕の紙芝居「なぜ七夕飾りをするの？」をスクリーンに映し出し話を説明。笹に願い事を書いた短冊を飾り、最後に「七夕の歌」を全員で合唱した。

5 アコーディオン演奏会

- ①日時 平成27年7月11日土曜日14時00分～15時00分 ②場所 療育センター・プレイルーム
5回目となるアコーディオン演奏会、毎回ボランティアとして来園。事前に持参されていた童謡他の歌詞本を写真に撮り、プロジェクターにて映写、演奏に合わせてスクリーンを見ながら全員で

歌い、最後には利用者代表の方によるお礼の挨拶で終了。

6 物故者追悼式

- ①日時 平成27年8月8日土曜日10時15分～11時00分 ②場所 療育センター・プレイルーム
物故者紹介、黙祷、追悼の言葉、献花、献歌、閉会后、参列者全員に飲み物を配布。
物故者の紹介では、顔写真が映写され懐かしそうに見ておられる方もあった。
献花した花は追悼式後、ともえ会のお墓にお供えした。

7 大掃除・ワックス掛け

日時 平成27年8月11日火曜日9時30分～

学園内の大掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。物品移動などは事前に実施。
作業別に役割を決め、各箇所の作業終了時には、チェック表にサインする事で効率良く出来た。

8 全体活動

日時 平成27年8月11日火曜日9時10分～15時30分

生活場所の大掃除のため、利用者は2班に分かれて「君田がんばり園」へ外出。
昼食は療育センターで、外注弁当を提供。また、プレイルームで「ともえどんちゃんず」の映像を映写した。

9 スポレク祭

- ①日時 平成27年9月19日土曜日10時30分～14時40分 ②場所 グランド・療育センター・生活棟
午前中は、健康体操を河原田講師を迎えて全員対象で体操。午後からはニュースポーツを体験。
競技はカラーリング、フライングディスク、ストラックアウト、室内グランドゴルフ、たいこ相撲、スマイルシャッフルと9種類用意。誰もがすぐに出来て楽しめた。

10 収穫祭

- ①日時 平成27年10月24日土曜日10時00分～15時00分 ②場所 センター多目的棟
午前中は、各グループの畑で芋掘りを行い、沢山のサツマ芋が収穫できた。
午後からは多目的棟で収穫祭を行い、御神輿も入場。作物収穫に感謝し榊奉納を行った。

11 文化祭

- ①日時 平成27年11月11日水曜日10時30分～15時00分 ②場所 療育センター
午前中は各グループの発表会、午後からは各ブース（ゲーム、びっくりハウス、スイートポテト作り）を回って体験してもらった。

12 クリスマス会

- ①日時 平成27年12月25日金曜日13時40分～14時40分 ②場所 療育センター・プレイルーム
利用者の作品やツリー等を会場に飾り開催。利用者仮装のサンタ、トナカイ、雪だるまが登場。
ボールを使ったゲームやプレゼント渡しなど、楽しく開催された。

13 餅つき

- ①日時 平成27年12月28日月曜日10時00分～14時45分 ②場所 療育センター・プレイルーム
グループ別に時間を分けて餅つきを実施。午前はレインボーグループ、午後はトライアングル、続いてはなまるグループの順。沢山の利用者が餅つきや餅もみの体験をされた。

14 大掃除、ワックス掛け

日時 平成27年12月30日水曜日9時30分～

学園内の大掃除とワックス掛けを作業順序に沿って実施。今回はなまるグループ生活場所の実施はなかったため、時間に余裕ができスムーズに行えた。天候も良く、早く作業が出来た。

15 全体活動

日時 平成27年12月30日 水曜日 9時10分～15時30分

生活場所の大掃除の日、はなまるグループの利用者9名は生活棟での活動、他のグループの利用者は療育センターでカラオケやビデオを見て過ごされた。

16 27年 年間報告

日時 平成27年12月30日 水曜日 内容 報告者：各部署部課長、親睦会会長

年間報告として各部署より400字程度の報告文を提出、園長の総括とともに職員全員へ周知した。

17 職員年賀式

①日時 平成28年1月6日 水曜日 9時～9時5分 ②場所 ともえ学園 職員室

朝礼の要領で整列し朝礼前に次長の進行により開会。一同礼の後、園長の年頭の挨拶、年男、年女2名の職員による今年の抱負。最後に新年を祝い、グレープジュースを全員で乾杯した。

18 年賀式

①日時 平成28年1月6日 水曜日 10時10分～11時10分 ②場所 療育センター・プレイルーム

園長より年頭の挨拶、年男・年女の紹介、代表者挨拶、鏡開き、乾杯、書道パフォーマンス披露、「一月一日」を参加者全員で合唱、最後に神主と巫女に扮した職員と各グループ別に記念撮影。

19 とんど

①日時 平成28年1月15日 金曜日 13時50分～14時10分 ②場所 駐車場裏空き地

係長の挨拶により開始、年男・年女の代表者はトーチを持って「とんど」に点火。当日は体調不良の利用者が多数おられたため、予定より小規模な内容で実施。年賀式で披露された書道パフォーマンスでの書や、書き初めが竹と共に勢いよく燃え上がった。一年の無病息災を祈念した。

20 節分祭

①日時 平成28年2月3日 水曜日 14時00分～14時50分 ②場所 療育センター・プレイルーム

「節分」の由来について説明後、豆まきゲーム「豆入れ」実施。鬼のボードへ向けてカラーボールを投げ、くり抜かれた所に玉を入れて各グループで対戦するという内容だった。

21 活動報告会

①日時 平成28年3月12日 土曜日 13時50分～14時40分 ②場所 療育センター プレイルーム

一年間の各グループの成果と評価、リサイクルクラブで得た年間売上の報告がされた。

利用者の労をねぎらい、来年度の励みになるよう表彰式で写真立てと賞状が渡された。

(宮崎静美)

15 対外行事

他施設や地域の方々との交流や親睦を図りながら、地域社会の理解を深める事を目的に実施。

1 広島県西部地区知的障害関係施設親善球技大会

①日時 平成27年5月24日日曜日10時00分～15時30分

②場所 広島修道大学 グラウンド、体育館 ③参加者 利用者15名 職員9名

参加競技は、ゲート通し 団体3名1組(9名)、フライングディスクアキュラシー(6名)

結果：1名の方が優勝され表彰された。

2 ひろしま障害者フライングディスク競技大会inみよし

①日時 平成27年8月2日日曜日10時00分～15時30分

- ②場所 みよし運動公園テニスドーム
- ③参加者 利用者13名 支援職員6名
- アキュラシー7m（一定の距離に置いた輪に10投し通過した枚数を競う）に参加。
- 結果は、40代では1位、2位、3位入賞、20代、50代の部では3位入賞の好成績をおさめられた。
- 競技後、ビンゴ大会があり、皆さん参加された。

(宮崎静美)

1 6 外泊

- 1 ゴールデンウィークの外泊 4方面（広島、福山、呉、大竹）に車両を運行
送り…4月29日 水曜日 迎え…5月5日 火曜日 車両を運行した。
外泊者数33名（療育センター宿泊利用1名） 学園車両使用者数：送り20名 迎え25名
※外泊者数の減少により、呉と福山方面の引率職員は2名から1名に変更した。
- 2 お盆外泊 4方面（広島、福山、呉、大竹）に車両を運行
送り…8月10日 月曜日 迎え…8月17日 月曜日 車両を運行した。
外泊者数36名（療育センター宿泊利用1名） 学園車両使用者数：送り23名 迎え23名
- 3 お正月外泊 4方面（広島、大竹）に車両を運行
送り…12月29日 火曜日 迎え…1月5日 火曜日 車両を運行した。
外泊者数24名（療育センター宿泊利用1名） 学園車両使用者数：送り16名 迎え13名
※感染症多発時期のため、感染予防のお知らせとお願いをした。
- 4 まとめ
広島、福山、呉、大竹方面への送迎を実施。
送迎車両を利用されない方は、随時、ご家族の希望日に外泊を実施した。

(宮崎静美)

1 7 虐待防止委員会

内容

- 1 「虐待防止のための計画づくり」…虐待防止の研修や、マニュアルやチェックリストの作成と実施、掲示物等ツールの作成と掲示等の実施計画づくり。
- 2 「虐待防止のチェックとモニタリング」…虐待防止の取り組みの実施プロセス
虐待防止チェックリスト、個々の支援体制の状況（課題）、発生した事故（不適切な対応事例も含む）状況、苦情相談の内容、職員のストレスマネジメントの状況等の現況を踏まえて、どのような対策を講じる必要があるか具体的に検討し、職員への研修計画や各部署の職員が取り組む改善計画に反映させ、虐待防止マネジャー（部課長）を中心とした各部署での具体的取り組みを指示。
- 3 「虐待（不適切な対応事例）発生後の検証と再発防止策の検討」…虐待や疑いが生じた場合、行政の事実確認を踏まえて施設で事案を検証の上、再発防止策を検討し、実行に移す。

まとめ

- ・委員長：園長 委員：次長、部長、全課長の構成で、毎月定例の運営会議時に開催し、会議内容は運営会議録と共に全職員に周知した。
- ・12月に虐待事案が発生したため、事案の検証と再発防止策策定、取り組みを行った。

(前岡孝司、高田孝康、宮崎静美、藤田由香里、塚本博志、久保宏子、後田喜代子)

18 人権委員会

1 年間目標

- ・利用者、職員同士に於いても人権侵害、暴力、暴言は絶対に行わない。
- ・体罰を用いた支援は絶対に行わない。
- ・礼節ある言葉遣いとプライバシー保護への配慮をする。
- ・専門職間の相互支援による孤立の予防（より開放的にして関わる）

2 具体的重点目標

- ・利用者の呼称は「さん」付けで統一する。
- ・上下関係での叱責語・命令語及び乱暴な言葉は使わない。
- ・高圧的で威嚇するような働きかけはしない。
- ・利用者に対する人権侵害が起きる前段階で、職員同士で声を掛け合い侵害を未然に防ぐ。
- ・「振り返り」を行う事で、支援の見直し、質の向上に取り組む。

3 取り組み

- ・月毎に1ヶ月の支援方法についての振り返りをし、各グループの定例会議または、施設内メールで意見をまとめてく。
- ・過去に論じ重要と思われる議題を再度提案し、現在に至る取り組みを知ってもらう。また、新任職員や長く勤務している職員にも再確認の意味も含めて協議し、利用者に対する係わり方を再考してもらう。
- ・人権意識を持って対応する事を忘れる事がないように、人権係でポスターや標語を、管理棟職員室に掲示して啓発活動を行う。
- ・行動規範の責務と努力事項の啓発及び報告担当者からのメッセージを発信した。
 - 5月…利用者の意思・個性の尊重
 - 7月…利用者の生活環境の保証
 - 9月…情報提供と信頼
 - 11月…安心と安全の保証、差別用語について
 - 1月…支援者のチームワーク

4 各月の取り組み

- ・具体的重点目標の項目順に毎月実施。
- ・各部署で目標を発信し翌月振り返りを行い、問題があった場合は、随時係で検討し改善に向けて発信をした。
 - 5月 利用者の呼称は「さん」付けで統一する① …6月に振り返り
 - 6月 上下関係での叱責語・命令語及び乱暴な言葉は使わない① …7月に振り返り
 - 7月 高圧的で威嚇するような働きかけはしない① …8月に振り返り
 - 8月 利用者に対する人権侵害が起きる前段階で、職員同士で声を掛け合い侵害を未然に防ぐ①
 - 9月 利用者の呼称は「さん」付けで統一する② …10月に振り返り
 - 10月 上下関係での叱責語・命令語及び乱暴な言葉は使わない② …11月に振り返り
 - 11月 高圧的で威嚇するような働きかけはしない② …12月に振り返り
 - 12月 利用者に対する人権侵害が起きる前段階で、職員同士で声を掛け合い侵害を未然に防ぐ②

1月 利用者の呼称は「さん」付けで統一する③ …2月に振り返り

2月 上下関係での叱責語・命令語及び乱暴な言葉は使わない③ …3月に振り返り

5 まとめ・今後の課題

人権委員会のメンバーが2ヶ月毎順に、行動規範の責務と努力事項の啓発のメッセージを全体に発信し啓発を行った。啓発活動の継続と、職員相互の意見の交流が活発となるよう働きかけていきたい。

(濱本 豊、高場修治、藤 頼久、山下英明、宮崎静美)

19 サービス向上委員会

サービス向上の企画、検討、提案を目標とし、全職員対象にサービス自己評価チェックを実施した。

結果としては、地域生活への移行や地域との交流などについての評価が低かった。今後は、利用者の活動の講師招聘やボランティア受け入れ、地域行事への積極的参加等検討していきたい。

(高田孝康、宮崎静美、後田喜代子、岩戸洋三、荒瀬好司、福永真也)

20 環境整備

1 目的：施設外を中心に清潔、安全に保ち、気持ちのよい生活環境、来園者にも良い印象を与えられるように環境整備を行う。

2 内容

- ・学園周辺の草刈り（草刈りを行う）
- ・FOXの修繕と管理（掃除や色塗り）
- ・遊歩道整備と管理（安全に散歩ができるように倒木の伐採や草刈りを行う）
- ・山の管理（下草や枝木の切り落とし）
- ・10月と11月は椎茸の原木の切り出しを行う。
- ・日中活動の下準備

3 まとめ

- ・環境整備係が6月に結成された。
- ・7月～10月まで月に2回、11月～3月まで月に1回行った。
- ・午前活動の下準備などすることが沢山あり時間が足りないぐらいだった。
- ・危険な道具の使用が多いので使用前には必ずメンテナンスを行った。草払い機やチェーンソーを誰がどのように使用したか把握できていない。
- ・学園の備品を安全で大事に使用して頂く為にも講習の実施を検討する。

(福永真也、魚見敏満)

21 運動マシン

1 目的：メニューの企画とマシンの保守管理

2 内容

- ・トレーニングルームの掃除と点検。
- ・各グループで利用者の必要に応じてマシンを使用する。
- ・マシン操作の理解度による利用者のグループ分け。
- ・運動前と運動後のバイタルチェック。

- ・バランスボールやストレッチバンドを使用したストレッチ。

3 課題・まとめ

- ・各グループの係の職員の判断で行ってもらった。トライアングルは日課の中で継続して行っていたが、レインボー、はなまるについては殆どマシンの使用はなかった。
- ・全体的にマシンを使用する時間が少ない。
- ・マシンに対する利用者の理解が低く、使用が難しかった。
- ・マシン操作ができない利用者のバックアップを考えなければならない。
- ・日課に取り入れて作業を行えば職員の確保ができる。
- ・拒否、興味が続かないなどマシントレーニングの実施自体が難しい利用者が多く効果的に実施する為の工夫が必要だった。
- ・マシン操作の困難な利用者にはウォーキングに参加してもらおう。

(竹林祐樹、渡邊 武)

2 2 健康体操

- 1 目的：健康体操を通して利用者が楽しい気持ちで身体を動かしていくことに慣れ、気分転換をしていくことで健康維持に繋げる。
 - ・職員も楽しみながら、手を添えた支援をしていく。

2 内容

講師：河原田聡美氏

日程：毎月2回 土曜日か日曜日の午後を講師と話し合いの上、日程を決定した。

3 実施日

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
実施日	18	6	13	5	1	6	3	21	19	—	—	19
日	25	16	27	20	22	19	31	29	26	—	27	26

※11月8日(土) みよし健康福祉祭に参加

※1月から2月にかけて、感染症発生のため健康体操は中止した。

4 課題、まとめ

- ・この一年間、主な目的は継続し、利用者の変化などを観察した。前半は、個別ストレッチを行う事で職員が支援する力を付けていくと共に利用者の一人ひとりの様子を観察した。
- ・後半は、ゲーム等を取り入れ、今まで参加出来なかった利用者が興味を持ち、スムーズに参加し身体を動かす事を目標とした。
- ・スポレクでは、各グループごとに分かれ体操を行い、家族の方にも参加してもらった。
- ・福祉祭に参加し、地域の方々との交流を行った。
- ・課題としては、職員が利用者に関わり支援していく力をつける。
- ・参加しにくい利用者が少しでも興味のもてる内容を提供して行く。

(若床まゆみ、竹林祐樹、中岡健太郎)

2 3 入浴

1 取り組み：利用者が安全で安心して使用できる浴室の環境整備や管理を行った。

2 内容

- ・シャンプー、ボディソープ、バスマジックリンなどの資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎月、月末の土曜日の午前は、職員が浴室内外の清掃を行った。事前にサイボウズで清掃場所のお知らせを行った。
- ・入浴支援担当表を作成しスムーズな職員配置を組んだ。勤務変更があった場合は随時変更した。病院などの受診など急な職員不足にも対応出来た。
- ・体調不良の個室対応の利用者がいた場合、入浴時間の変更を行い感染防止に努めた。
- ・バスタオル、洗体用タオル、職員用タオルを更新した。古いバスタオルは床拭き専用雑巾として、職員用タオルは雑巾として再利用した。

3 経過・課題

- ・物品については、足ふきマットを購入した。その他の物品については劣化等もなく、引き続き同じ物を使用する事が出来た。
- ・入浴支援では、夜勤が4人体制になった事で、安定して人員確保が出来た。
- ・資材等の発注では、ボディーソープやシャンプーが少なくなると、声を掛けてもらえ、足りなくなる事はなかった。
- ・課題として、消耗品の補充や備品の点検を定期的に行う様にしなければいけない。
- ・係としては、3人で業務の分担を行い、調整等は出来ていたように思う。

(今田弘之、見土 唯、藤井秀樹)

2 4 洗濯

1 取り組み

- ・利用者の衣類等の洗濯をスムーズに行えるよう、洗剤等必要な物が不足しないように補充する。
- ・洗濯室を衛生的に保持する。
- ・大型洗濯機、汚物処理機等が故障しない様点検する。

2 内容

- ・洗濯洗剤、柔軟剤、ソフランシート、酸素系漂白剤、汚物洗濯機用洗剤類等の資材が不足しないよう点検、補充、管理を行った。
- ・毎週日曜日の午前は、早出職員が洗濯物畳みの後、洗濯室内の清掃を行った。
- ・体拭きタオルの更新、洗剤容器の更新、雑巾の作成を行った。

3 経過・課題

- ・洗濯機の故障や洗剤漏れが相次ぎ、迷惑をかける事があった。
- ・洗濯室の清掃がまだ不十分に思える。掃除時間の確保と衛生的な環境作りが必要。
- ・ボランティアの方にも協力してもらい、タオルを再利用した雑巾を作成した。今後も継続的に実施して行きたい。

(渡邊 武、桑田樹実、上川清美)

25 衛生

抗菌、防かび、感染予防対策等の周知と検証について

- ・10月～12月に利用者全員と職員希望者に対してインフルエンザの予防接種を実施した。
- ・1月～2月にかけて新型ノロウイルスによる感染症が流行した。
- ・年末に感染マニュアルを作成していたため、周知を行い感染予防行動を呼び掛け実施した。

(島原由美)

26 寝具

1 内容

- ・毎週火曜日までに寝具の発注用紙を記入。
- ・火曜日に寝具の搬入があり、その後リネンの係りが在庫の確認と調整をする。
- ・各グループへの在庫枚数の確認をし、リネン庫入口より左の棚に置く。
- ・在庫を確実にする為に在庫は最低限にする。リネン台帳を作りリネン室に置く。
- ・布団やシーツを汚した利用者についてはリネン台帳に名前を記入し、寝具を持ち出す。
- ・定期的に関リネン庫の掃除を行う。
- ・不潔リネン室に、業者より麻袋を置いてもらい土曜日に回収してもらう。納入業者より申し入れ有り、抱布シーツ用袋のみ3月18日より変更。
- ・血液・便の付着した掛・敷布団・毛布は洗わずに小さく丸めて黒ナイロン袋に入れて出し、回収してもらう。便の付いた物については便が付いていることを紙に書き、業者に分かるようにナイロン袋に入れておく。
- ・感染症に関わる汚染物が付着している場合黒色ナイロン袋に入れ袋に詳細を記入する。
- ・破れた寝具を返却する際には専用用紙に記入する。
- ・7月に掛け布団から毛布に、10月に毛布から掛け布団に変更。
- ・定期的に関使用している寝具を取り替える。

2 反省

- ・納入時の数量違いが数回あり、納入業者へ誤配有りと訂正を求めた。
これは事項の数量違いの一因と思われる。
- ・帳簿が未記入で在庫との食い違いが見られた。
後納入時と払出時に数量を確認するようにし、再度実数確認をする。
- ・便汚染などの汚れの布団も適切に処理し、業者へ回収してもらう事が出来た。
- ・発注伝票の記入忘れがあったが、滞り無く適切にできた。
- ・また感染症発生時、寝具不足も発生したが滞り無く対応する。

(瀬戸 彩、中野基行、藤本将太郎、佐々木優希)

27 営繕

1 目的：依頼があれば、迅速、安く、丁寧に対応する。

- ・生活しやすい環境を整え整理整頓する。

2 主な実施内容

4月 樋確認、掃除・ベッド点検、修理・壁修理・無人販売所の苗の台のペンキ塗り・中庭カビ取り

花壇周辺草刈り・洗面室ドア修理・居室ネームプレート貼りつけ

- 5月 多目的棟樋掃除・溝掃除・センターカーテン修理・センター部屋ネームプレート入れ替え・管理棟玄関、浴室外黒ずみ落とし・食堂壁ゴム直し・居室ネームプレート貼り付け・中庭黒ずみ除去・居室鍵調整・倉庫棚付け、修理・壁（へこみ、穴）修理・長椅子脚補修・ドアクローザー修理、確認・交換
- 6月 環境整備係との合同作業
草刈り（進入路周辺、リサイクル棟前周辺、遊歩道周辺、法面）・絨毯の撤去と焼却
- 7月 廃棄物品の確認と移動・溝掃除・畑草刈り・ドアクローザー交換・壁補修・ドア修理
- 8月 環境整備係との合同作業
草刈り・枝木処理・除草剤噴霧・営繕室掃除、片付け
- 9月 環境整備係との合同作業
草刈り）・椎茸ハウス単管パイプ運び・にんにく植え込み
- 10月 環境整備係との合同作業
周辺樹木伐採・壁紙貼り替え・ネームプレート部分壁塗り・不要品整理、撤去、移動、焼却・テレビ台補修・長椅子修理・畑整備
- 11月 ドアクローザーの点検、確認、交換・壁補修・カーテンレール確認、補修、撤去・壁補修、壁塗り・ベッド補強・フェンスゆがみ修理・アクリル板設置・薬ケース補修・倒木整理・カビとり
- 12月 営繕室掃除、片付け・壁補修、壁紙・機械器具の動作確認、保守、補修、整備・リモコン固定
- 1月 換気扇の掃除・洗面所の掃除・電子錠ドアの点検・ドア周辺掃除・壁修理・食堂テーブル補強
- 2月 壁コーナーカバー貼りつけ・モップ柄修理・倒木整理・ハウス修繕
- 3月 木の処分・樋確認・清掃・棚作成・机修理・空き缶入れ表示変更・防草シートめくれ直し・網戸片付け・洗面所水漏れ修理

3 まとめ、課題

- ・環境整備と合同作業もあったが、時間が足りないということはない。
- ・サッシが更新されたので、きれいな状態を保つ為定期チェックしていく。
- ・営繕室の整理整頓が課題。必要な物がない事がある為、使用状況等チェックしていく。また、全体へ使用後は営繕室に戻すよう促していく。
- ・ドアの閉まり具合を定期的にチェックし、閉まりにくいという報告が減るようにしていく。

（竹間和輝、中野基行、藤井秀樹）

28 食生活

- 1 目的：食堂の環境整備、清掃、備品の管理をおこない、毎日の食事を美味しく気持ち良く摂っていただける快適な空間と支援を提供するため企画検討実施する。
- 2 内容
 - ・各グループで必要に応じて利用者の席の変更を行った。
 - ・席の変更等があった場合、机の座席表シールを交換した。
 - ・手消毒用のジェスパを使用し食事前の消毒には気つけた。
 - ・ボランティアに依頼し食堂用テーブル台拭きを縫ってもらった。
 - ・毎週日曜日に各グループより一名ずつ集まり、食堂の汚れている箇所を清掃した。

- ・エプロンを新しく更新した。
- ・食堂用台拭きの、1日の使用枚数を規定する台拭き使用マニュアルの見直しを行った。
- ・食数について、朝食は夜勤リーダーに確認。昼食数は朝礼での確認。夕食はグループごとに午後
の間食時に数量を確認するように変更した。
- ・エプロン、台ふきんは12月より夜勤リーダーが洗濯、保管するよう変更になった。
- ・感染症予防の為、厨房から出す台ふきんは厨房遅出職員が終了するときに製氷機の上に使用した
台ふきんを置いておくことになった。
- ・食堂の椅子、テーブルを新しく更新した。

3 課題・まとめ

- ・消耗品の補充や座席表シールの貼り替えが遅れる時があった。
- ・利用者の方が座席表を貼っても取ることに拘るために、後半は座席表を貼らなかった。
- ・小さいスプーンが足りないため、4月に厨房に口頭で補充依頼を行ったが、補充は無く足りない
ままだった。利用者は足りない時は大きいスプーンを使用してもらった。
- ・10月より3月までに台拭きを50枚補充した。多い時は補充して一週間経たないのに足りない時も
あった。
- ・3月15日、台ふきんを黄色に変更し一斉に交換したが、同月23日には足りなくなっていた。
- ・台ふき管理の徹底が出来ておらず、次回の課題になっている。

(桑田樹実・濱本 豊・高森 強)

29 ともえ通信

1 概要

- ・ともえ通信の編集発行と、平成26年度の事業報告書の編集発行。
- ・ともえ通信は毎月1日に印刷。ご家族、理事、評議員に配布し、同時にホームページに掲載。

2 毎月の記事

- ◇5月1日発行 第325号 ①4月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④花まつり
⑤5月の予定 ⑥編集後記
- ◇6月1日発行 第326号 ①5月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動報告会
⑤6月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇7月1日発行 第327号 ①6月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④ミニレク祭
⑤7月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇8月1日発行 第328号 ①7月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④七夕祭り
⑤8月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇9月1日発行 第329号 ①8月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー④物故者追悼式
⑤9月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇10月1日発行 第330号 ①9月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④スポレク祭
⑤10月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇11月1日発行 第331号 ①10月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④収穫祭
⑤11月の予定 ⑥新任職員の紹介 ⑦編集後記
- ◇12月1日発行 第332号 ①11月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④文化祭
⑤12月の予定 ⑥編集後記

- ◇ 1月1日発行 第333号 ①12月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④もちつき
⑤新年の挨拶 ⑥1月の予定 ⑦編集後記
- ◇ 2月1日発行 第334号 ①1月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④年賀式
⑤とんど ⑥2月の予定 ⑦人事異動のお知らせ
- ◇ 3月1日発行 第335号 ①2月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④節分祭
⑤3月の予定 ⑥人事異動のお知らせ ⑦編集後記
- ◇ 4月1日発行 第336号 ①3月の様子 ②各グループの出来事 ③一品メニュー ④活動報告会
⑤4月の予定 ⑥編集後記

(魚見敏満、掛川陽介、藤 頼久、濱本 豊)

30 職員研修

1 職員研修会

①目的：研修の機会の提供・利用者支援技術の向上

・障害者に対する人権意識、福祉に携わる人の心得を認識するため

②内容

- ・ 5月30日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者11名
講師：安田女子大学教授 船津守久先生
「障害への理解と関わり」
今年度、どのような研修会にしていくか討論会
- ・ 6月27日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者15名
講師：中岡健太郎
テーマ：「口腔ケアの必要性及び磨き方」
- ・ 8月21日（金） 18：10～20：00 センタープレイルーム 参加者26名
講師：三次消防署職員 3名
テーマ：「救命救急について」（心肺蘇生法の学習、AEDの使い方）
- ・ 8月29日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者14名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
テーマ：「施設等における虐待とその防止について」
- ・ 9月26日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者11名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
テーマ：「利用者へのかかわり」
- ・ 11月21日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者15名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
テーマ：「障害への理解と接遇」
職員討論会：困難事例等
- ・ 1月30日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者12名
講師：安田女子大学教授 船津守久氏
テーマ：「利用者との接遇」
- ・ 2月27日（土） 18：10～20：00 職員室 参加者13名

講師：安田女子大学教授 船津守久氏

テーマ：「利用者へのかかわり」

研修報告 第29回全国自閉症者施設協議会 神奈川大会 竹間和輝さん

研修発表内容「自閉症の方の世界観を知り、専門性を持って暮らしを支える」

「自閉症スペクトラムの概念から捉える自閉症」

「当事者研究の立場から考える自閉症」

③感想

- ・船津先生に6回講義していただき、心理学を通して利用者への理解を深めることができた。
- ・参加者の増加を目指し、毎回各職員に参加を促すが、思うように参加率は上がらなかった。
- ・DVDを多用することで、実務経験の差があっても判りやすい研修会が出来た。

2 新任職員のビデオによる研修

・新任の生活支援職員、看護師を対象に、自閉症の方に対する共通認識を持ち理解を深めてもらうため、次の4本のDVDを見て感想を提出してもらった。

- 対象ビデオ
- 1 「自閉症者の自己実現を目指して」
 - 2 「自閉症の子どもたちーバリアフリーを目指してー」
 - 3 「青年期・成人期のTEACCHプログラム」
 - 4 「国立のぞみの園」～豊かな地域生活をめざして～

(中岡健太郎、竹間和輝)

3 新任職員研修

新任職員を対象に、施設運営全般について各部署の責任者からの講義と、業務終了後にヒアリングを実施した。

内容：運営方針、パソコンの取扱、消防関係、知的障害他処遇関係、栄養課業務、食事関係、医療ヒアリング…業務終了前の10分程度その日の業務についてヒアリングを実施、約1週間継続
新任職員にサポート職員を任命、サポート職員や上司は日々の様子や感想、困った事等はないかにいつでも聞ける体制を敷いた。

実施時期 6月 対象職員：生活支援員2名

8月 対象職員：生活支援員1名・看護師1名

10月 対象職員：生活支援員1名

3月 対象職員：生活支援員1名

◇その他

新人教育チェックシートを作成し実施した。施設職員として必要なレベルのためのものであり、新任職員の修得してきた事の確認をするとともに、フィードバックを行い、新任職員が自信を持って一歩ずつ能力を獲得していくために行うものである。評価者は、新任職員と一緒に考え、励ます姿勢で評価を行う。評価は、自己評価に加えサポート職員や各部署の部課長による他者評価を取り入れる事とした。

業務目標・成果シートと併用して面談とチェックシートの確認を設けたが、上手く伝わっていなかった面もあった。次年度は確実に実施し、新任職員のレベルアップに向けて行きたい。

(宮崎静美)

3 1 親の会

1 概要：ともえ学園入所者のご家族で組織されたものが「ともえ親の会」であり、事務局は親の会係として職員が担当しており、以下親の会の活動を紹介する。

2 事業

1) 定例総会の開催

平成27年5月23日（日）於：ともえ学園療育センター 47家族、67名参加

2) 役員会の開催

1回目 平成27年5月24日（日）於：ともえ学園療育センター

2回目 平成27年6月21日（日）於：ともえ学園療育センター

3回目 平成27年7月19日（日）於：ともえ学園療育センター

4回目 平成27年9月19日（日）於：ともえ学園療育センター

5回目 平成27年11月15日（土）於：ともえ学園療育センター

3) 福利厚生…香典、弔慰金、生花、傷病見舞金、餞別の贈呈。

4) A I U損害賠償保険への加入継続。損害賠償金の支払い。

5) 入院時の付添看護料について。

6) A S J 互助会加入について。

7) 親善球技大会 平成27年5月24日（修道大学グラウンド）

8) 分科会と全体会の開催 平成27年6月21日（日）於：ともえ学園療育センター
「分科会と全体会」 46家族、62名参加

9) 例会とお楽しみ会の開催 平成27年7月19日（日）於：ともえ学園療育センター
「例会とお楽しみ会」 46家族、62名参加

10) 臨時総会と利用者発表会の開催 平成27年11月15日（日）於：ともえ学園療育センター
「臨時総会と利用者発表会」 50家族、68名参加

11) 外泊の受け入れ、援助

◇平成27年 4月29日（水） ～ 平成27年5月5日（火）

◇平成27年 8月10日（月） ～ 平成27年8月17日（月）

◇平成27年 12月29日（火） ～ 平成28年1月5日（火）

12) グループレクリエーションへの参加

◇トライアングル 平成27年10月10日（土）15家族、21名参加

◇はなまる 平成27年10月11日（日）19家族、24名参加

◇レインボー 平成27年10月12日（月）18家族、33名参加

3 感想・今後の課題

- ・今年度は決め事が多く、話し合いの場が多く設けられた。
- ・利用者発表会では、各グループとも練習に励み、練習の成果を十分に発揮することができた。
- ・グループレクリエーションは天候にも恵まれ各グループとも好評だった。
- ・今後もご家族の方の要望などを取り入れ、柔軟に対応できるよう努めたい。

（見土 唯、菅原献司、藤 頼久）

32 ボランティア

- 1 概要：ボランティアグループ三次の皆様への受け入れ企画、送迎などを行い、衣類補修、台拭き縫い、雑巾の作成をして頂いた。
- 2 施設見学
 - ・初めて来園された方や希望された方には施設を見学をして頂き、利用者が生活されている様子などを見て頂いた。分かりやすいように配置図や学園の要覧などを渡した。
 - ・ボランティアに来園された方々の承諾を得て、写真をフェイスブックに掲載させて頂いた。
- 3 作業
 - ・作業に不足している物があれば来園された時に聞きながら補充を行った。
 - ・ミシンは作業前に確認し直ぐに作業が取り掛かれるようにした。
 - ・コードレス電話を置き使い方の説明をし、不具合や困った事などはすぐに電話で知らせてもらうようにしたところスムーズに対応が出来、終える事が出来た。
- 4 アンケート
 - ・今後の対応を向上させるためにアンケートに回答して頂いた。
 - ・来園者の皆様で話し合っって1枚に回答して頂いた。
- 5 受け入れ状況
 - ・ 5月25日 和田地区 3名 見学あり
 - ・ 7月27日 十日市地区 5名 見学なし
 - ・ 10月26日 川西地区 5名 見学なし
 - ・ 1月25日 十日市地区 積雪の為、中止
 - ・ 2月22日 河内地区 5名 見学なし
 - ・ 3月28日 八次地区 5名 見学なし
- 6 反省
 - ・今年度は係職員が、たびたび変更になったが、問題無く行えた。
 - ・1月25日のボランティアは積雪の為、中止となった。
 - ・湯茶の確認不足があった。

(掛川陽介、森宗明浩)

33 見学

- 1 概要：電話等での依頼により、見学日、内容等の希望を聞き、行事予定表に沿って日程調整を行った。特に、生活棟の見学については、利用者への影響や、プライバシーの保護を優先し、時間帯をずらせたりなど配慮を行い実施した。
- 2 見学受入日
 - ・ 7月10日 金曜日 3名 施設見学 (ニューライフ君田 職員)
 - ・ 7月18日 土曜日 2名 施設見学 (ニューライフ君田 職員)
 - ・ 8月18日 火曜日 2名 短期入所利用希望 施設見学 (本人、ご家族)
 - ・ 8月26日 水曜日 2名 施設見学 (一般)
 - ・ 9月4日 金曜日 2名 施設見学 (広島県健康福祉局長他)
 - ・ 9月19日 土曜日 1名 施設見学 (障がい者支援事業所 あゆみの里 相談室長)

- ・ 11月25日 水曜日 3名 入所希望（本人、ご家族）
- ・ 1月13日 水曜日 3名 施設見学（多機能型事業所 ぽこ・あ・ぽこ）
- ・ 3月11日 金曜日 4名 施設見学（福山六方学園）
- ・ 3月15日 火曜日 4名 施設見学（ふれあい協同作業所口和、相扶園職員）
- ・ 3月16日 水曜日 3名 入所希望（本人、ご家族）

（宮崎静美）

3 4 実習

- 1 目的：自閉症や知的に障害がある方たちに対して、支援方法や人権尊重をふまえた理念を実習生に伝え、福祉専門職に就くために必要な技能と知識の一端を学んでもらう。
- 2 受け入れ状況：平成28年2月15日～24日（10日間）中国学園大学保育実習 1名
- 3 まとめ
 - ・ 事前の施設訪問を行い、施設・利用者の特徴などを説明し施設見学を行った。また、自閉症に関して説明してあるDVDを貸し出し事前学習をしてもらい実習に入る前に理解を深めてもらった。
 - ・ また、実習終了後にDVDを見た感想と「実習を終えて」との題で感想を提出してもらった。
 - ・ 自宅から通えない学生であった為、療育センター宿泊室に宿泊してもらった。
 - ・ 実習日誌については事前に配属部署の課長に設定してもらった日々の担当者により、スピーディーに書き込みができ、実習生とのやりとりもスムーズであった。
 - ・ 実習期間中、ボランティアの受け入れで、宿泊室を空けないといけない日があったが、荷物の移動もスムーズで問題はなかった。
- 4 今後の課題
 - ・ 今年度は一回の受け入れであり、しかも1名だけであった為、少し残念であった。実習生個々の問題でもあるが、実習中当初、実習生としての姿勢等、いくつかの問題があった。
 - ・ 担当者の指導により、直ぐに改善されたが、事前の説明や指導が不足していたのかもしれない。
 - ・ 実習中のボランティアの受け入れの際、中国学園大学より、巡回指導の先生の訪問と重なり、しかも当日は実習系の職員が1名しか勤務できていなかった事、その職員がボランティアの係でもあった事、ボランティアと巡回指導の時間が重なった事で、慌ただしい対応となった。できれば、予定が明確になった時点で、何らかの配慮があれば良かったと思う。

（高場修治、若床まゆみ、掛川陽介）

3 5 あいさつ運動

- 1 主旨：『あいさつ』は、社会人としての基本でもあり一日の始まりでもあります。

一日の始まりを爽やかな笑顔で始めたいものです。その為にも進んで気持ちの良い挨拶をしましょう。

目標：「笑顔があふれる 爽やかな 挨拶を」
- 2 実施計画
 - ①利用者、職員間の挨拶を積極的に行う。
 - ・ あいさつレベル5の達成を目標とする。
 - ・ 司会者に朝礼時と施設見学時にタスキと腕章を付けてもらい、「笑顔で」「元気にはっきり

と」その日の出勤職員や各グループの利用者に率先して挨拶を行う。

②職員室の掲示板に「あいさつ運動」のポスターを貼る。

- ・ 3ヶ月に一度、係員が交替で作成し貼り替える。(B4画用紙)
- ・ 自由に個性を生かし、標語や絵などのポスターを作成する。
- ・ あいさつは、マナーや接遇にも関係しており、利用者や職員間の言動や態度などでこれは？と思われたことに対しては係員が各グループの課長と話し積極的に正していきけるよう声掛けや態度で示していく。
- ・ 3ヶ月毎各グループの方よりグループのあいさつの状況を、グループ会議で話し合い、あいさつ係に報告をしてもらい全体に報告周知をしていく。
- ・ 模範的な見本となる挨拶、姿勢、態度等を具体的に明示す。

③その他

- ・ 現場を離れるときに、行き先や、仕事内容を明確に声を出して他の職員に伝えているか(報告連絡)の啓発を行う。
- ・ 利用者に対する言動や態度にも注意をする。(相手に体を向ける、あいさつの仕方、同じ高さ目線に立ち挨拶をする。声掛けの仕方など)
- ・ 『あいさつ』は気持ちを込めて交わし合うもの。気持ち良く笑顔で挨拶されると、された側も同じく気持ちの良い挨拶を返したくなる。
- ・ 昨年度の「レベル5の達成と、達成職員の表彰」により、レベル5に近づく職員も多くなった。本年も職員一人ひとりが楽しく、気持ちの良い職場を作る為には、自らの心を開いて良い挨拶が出来るようになる事が大切だと思い実践していく。
- ・ 進んで「お先にあいさつ」を笑顔と一緒に持続していく。

3 実施状況(実施内容・変更点など)

- ・ 3ヶ月に1度管理棟職員室に、標語や絵などのポスターを貼り出した。

4 反省

- ・ 運動期間中はよい挨拶がされ気持ちが良く感じていたが、時間が経つにつれあいさつが自然に日常の中に入り飛びかうようになった。
- ・ 3ヶ月毎各グループの方よりグループのあいさつの状況を、グループ会議で話し合い、あいさつ係に報告をしてもらい全体に報告周知をしていく、と計画をしていたが全く出来なかった。
- ・ 職員の交代があっても、報告周知をするべきだった。

(山地恵子、田原恵里、菅原献司、金田和夫)

36 ゴミゼロ運動

1 目的：施設内外を清潔に保ち職員全体で住みやすい環境を整える。

2 清掃活動の取り組み

- ・ 年間の清掃場所と係員を決め清掃活動を行った。
- ・ 毎月第4土曜日の15:30から15分間で稟議書を作成。
他の係や行事などで変更しながら人数の確保が出来るときに清掃活動をした。
- ・ 事前に場所と内容、参加者名を周知した。

参加者(各グループから1名、事務所又は厨房・看護から1名、ゴミゼロ運動係1名の4名)

清掃箇所	4月25日	土曜日	管理棟職員室清掃
	5月23日	土曜日	学園正面玄関清掃
	6月27日	土曜日	職員会議室清掃
	7月22日	水曜日	ゴミ倉庫清掃
	8月23日	土曜日	学園正面玄関清掃
	9月26日	土曜日	洗濯室清掃
	10月24日	土曜日	管理棟宿直室清掃
	11月24日	係員不在	で中止
	12月26日	土曜日	療育センター玄関清掃
	1月23日	感染症の為、	中止
	2月27日	土曜日	男性更衣室清掃
	3月26日	土曜日	洗濯室清掃

3 まとめ

- ・全体清掃活動は日頃掃除が出来ていない場所などを重点的に清掃出来る良い活動だと思う。
- ・15分の限られた短い時間での清掃活動だが、参加者が協力し合って効率的に活動を行えた。
- ・他の係や行事など重なり当日変更や計画書で変更することがあった。

(福永真也、熊澤誠治、林 宏典、松本和幸)

3.7 掲示物

1 活動

- ・管理棟職員室のホワイトボードに情報誌やカタログ、広報誌やお便りを掲示し、それと併せてサイボウズに題名、発行者、種別、掲示期限を打ち込み周知した。
- ・サイボウズ内に打ち込んだもので掲示期限を過ぎた物に関しては打ち込んだ職員が消去していきサイボウズ内の整頓にも留意した。
- ・掲示物は職員が協力して期限の過ぎた物を撤去し、また廃棄し職員間の連携も保てたと思う。
- ・見栄えが悪くならないようバランスを考えながら掲示した。
- ・見だしを作成し、解りやすく掲示できていたと思う。
- ・期限の切れた書物はリサイクルへ活用することができた。

2 反省

- ・見てもらいたい掲示物を、紹介等していければよかったと思う。
- ・イベント情報等、外出に役立つ情報を啓発すればよかったと思う。

(上川清美、今田弘之、高森強、奥田崇喜)

3.8 エコロジー

1 理念

- ・限りある資源の活用方法と環境に配慮しエコロジーに対する意識を高める
- ・施設内で実践できるエコ活動の啓発

2 内容

- ・月ごとに担当を決めて、啓発の標語ポスターを作製する。

3 反省

- ・今年度は、前半では活動をしてこなかったため、後半には啓発のための標語ポスターを作製する事を計画していたが、それも結局しなかった。
- ・他グループの職員との連携もとれていなかった。
- ・他の係の職員と連携した啓発活動が出来れば良かった。
- ・学園の方では、食堂やトイレ生活棟のリビングの電気をLED電気に交換してもらった。
- ・来年度も係になった為、啓発活動など協力して行っていきたいと思う。

(堂西美保、熊澤誠治、瀬戸 彩、今中竜司、山縣圭子)

39 ホームページ

施設の情報公開と共有、交流をより深めるためすみやかな更新とコンテンツの充実を図った。ブログは毎日更新し、フェイスブックでも出来事を公開した。ネットワークカメラへのリンクは削除した。

(前岡孝司)

40 広島県知的障害者福祉協会 支援スタッフ部会

1 概要

- ・広島県知的障害者福祉協会の各施設の支援スタッフ部会員として、施設から選任され参加した。
- ・サービス提供における必要な視点、支援技術の情報交換や他施設の見学を通して話しあいながら資質の向上に努める。

2 支援スタッフ部会義

8月19日 広島県知的障害者福祉協会第1回圏域スタッフ部会議

場所：障害者支援施設いくせい

11月19日 広島県知的障害者福祉協会第2回圏域スタッフ部会議

場所：障害者支援施設友和の里

2月25日 広島県知的障害者福祉協会第3回圏域スタッフ部会議

場所：障害者支援施設いくせい園

3 内容

- ・第1回：支援スタッフ部会の活動内容について、
研修「障害者虐待防止法について」、「強度行動障害について」
- ・第2回：友和の里施設見学、研修「相談支援の連携について」
- ・第3回：研修「福祉の現場に立つ私達の誇りと責任について」
「障害者総合支援法施行後3年を目途とした検討事項について」

4 感想

・ニュースにもなった虐待問題や虐待防止法、虐待を受けやすい強度行動障害など、勉強になる研修を受けることができました。また、実際に相談支援専門員として活躍している方達の話しや、他施設の見学は初めてのことであったので、とてもよい機会になりました。

- ・人権や法律についても学ぶことができたので、上記の概要にあるような目的は達成できた。

(荒瀬好司)

4 1 施設整備

- ・厨房、管理棟トイレ便器をウォッシュレット付に交換
- ・療育センター空調設備設置工事
- ・リビング床改修工事
- ・食堂のイスとテーブルの更新
- ・居室サッシレールの改修
- ・居室、廊下の壁の改修
- ・給水用加圧ポンプ、ろ過器洗浄ポンプ更新

(高田孝康)

平成27年度 事業報告書

平成28年6月1日発行

ともえ学園 (障害者支援施設)

〒728-0002 広島県三次市西河内町250番地
電話 0824-62-5130 ・ FAX 0824-62-1934
E-mail tomoe@pl.pionet.ne.jp
URL <http://www.pionet.ne.jp/~tomoe/>
